

HOWA BANK 2011.9

ANNUAL REPORT

豊和銀行 中間期ディスクロージャー誌



CONTENTS

ごあいさつ		1
プロフィール		2
経営理念		2
経営戦略		2
当行グループの業績		3
業績ハイライト		4
経営強化計画における数	値目標の進捗状況	6
地域の皆さまとともに		8
店舗・ATMのご案内		14

資料編	
・連結情報	
・単体情報	27
・バーゼル	第3の柱に基づく開示 46
(業務および財)	第21条に基づいて作成したディスクロージャー資料 産の状況に関する説明書類)です。 てある計数は、原則として単位未満を切り捨てのうえ



コーポレートブランドである "HOWA BANK" のイニシャル "H" を基本モチーフに、あくまでシンプルなデザイン展開を行い、ロゴマークと行名に十分密接な関係を持たせています。地域社会とHOWA BANKを表す2本のライン、そして双方の永遠の調和をイメージする円をセンターに、全体を構成しました。2本のラインは、コーポレートカラーである「フレッシュブルー」で表現されます。躍動的なダイナミズムとエネルギッシュな生命力を伝え、地域社会とHOWA BANKのミューチュアルな発展を願う、企業理念と未来像を明示しています。センターの円は、あえてそのカラーに力強い黒を選び、HOWA BANKのブレゼンス(存在意識)をはっきりと宣言するものです。人が集い、情報がとびかう、「広場」としてのこれからの銀行のあり方を表現しながら、エリアコミュニケーションの核となるべきHOWA BANKのポジショニングをしています。そして、人・地域社会・HOWA BANKの力強い結びつきを象徴させています。

ごあいさつ



皆様方には、日頃より当行をお引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。 ここに、第94期上半期(平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)の営業の概況と中 間決算の状況についてご報告申し上げます。当行をよりご理解いただくための参考にして いただければ幸いに存じます。

当行の平成24年3月期中間決算につきましては、窓販商品等の販売強化により役務取引等収益が前年同期を上回ったものの、貸出金等の利回り低下により資金運用収益が前年同期を下回る実績となったこと等から、連結経常収益は前年同期比減収となりました。一方、中小企業金融円滑化への継続的取組みによる信用コストの減少や、経費節減の取組み強化による営業経費の減少等により、連結経常費用が前年同期比で大きく減少したこと等から、連結経常利益・連結中間純利益とも中間期としては2期連続の黒字を計上するとともに、後者については過去最高益を達成いたしました。

当行では、引き続き「経営強化計画」に沿って、収益力の強化および財務基盤の強化を 図ってまいる所存でございますので、ご理解とご支援の程よろしくお願い申し上げます。

なお、地域経済活性化の取組みを更に強化すべく、今般、「ほうわ成長基盤強化ファンド2 (知的財産担保融資ファンド)」を創設する一方、ビジネスマッチングの推進強化を柱とする「地域密着型金融推進運動」を展開しております。また、個人のお客様向けには、便利な特典が利用できる会員制の「ほうわサンクスサービス」の利便性を更に向上させるべく、今春にローソン ATM との提携をスタートさせることとしております。

今後とも地域社会とのつながりを深め、お客様との接点を一層強化し、地域に密着した「フットワーク力、ネットワーク力のある銀行」として、地域のお客様の成長・発展に貢献することを目指してまいります。

皆様方におかれましては、引き続き当行に対し変わらぬご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

平成24年1月 安藤 英徳

プロフィール (平成23年9月末現在)

名 称 株式会社豊和銀行 創 業 昭和24年12月22日 大分市王子中町4番10号 本店所在地

資本金 124億円

42か店(県内39、県外3) 店舗数

従業員数 530名(嘱託及び臨時従業員を除く)

預金残高 4,755億円 貸出金残高 3,740億円 有価証券残高 807億円



経営理念

抜本的な意識改革、組織改革を図り、地元大分県の経済発展に更に貢献していくことは、地域金融機能強化 のため国による資本参加を受けている当行の責務であると考えております。

以下の経営理念にもとづき、地域に真に必要とされる金融機関を目指して、地域経済活性化や CSR 等に一 層強力に取り組んでまいります。

経営理念

Contribution: 貢献

わたくしたち 豊和銀行は、地域の発展に貢献します。

Customers:お客様第一主義

わたくしたち 豊和銀行は、お客様に質の高いサービスを提供します。

Challenge & Change: 挑戦と変革

わたくしたち 豊和銀行は、たゆまぬ挑戦と変革により、未来を切り開きます。

経営戦略

当行は、「責任ある経営体制」のもと地域密着型のビジネスモデルを再構築し、収益力を強化するとともに、 財務基盤を強固にすることで、お取引先及び地域社会の信頼回復に努めてまいります。

以下の経営戦略にもとづき、経営改善の取組みを更に加速させてまいります。

「営業体制の再構築」~渉外戦力の量と質の向上

「収益力の強化」

「資産の健全化」~企業再生支援、不良債権発生の未然防止と早期処理

当行グループの業績

当行グループの当中間連結会計期間の連結経営成績は、以下のとおりとなりました。

連結経常収益は6,059百万円(前年同期比241百万円減、3.8%減)となりました。これは、保険商品等の窓口販売の強化に努めたことに伴い、役務取引等収益が前年同期を上回ったものの、貸出金等の利回り低下に伴い、資金運用収益が前年同期を下回ったことによるものです。

連結経常費用は5,017百万円(前年同期比498百万円減、9.0%減)となりました。これは、中小企業金融円滑化への取組みの結果、経常費用に係る信用コストが同261百万円減少したことに加え、経費節減の取組み強化により営業経費が同65百万円減少したことによるものです。

この結果、連結経常利益は1,041百万円(前年同期比257百万円増、32.8%増)となりました。また、これに繰延税金資産の増加により法人税等調整額が減少したことも加わり、連結中間純利益は1,242百万円(前年同期比535百万円増、75.7%増)となりました。連結経常利益、連結中間純利益とも中間期としては2期連続の黒字となり、うち連結中間純利益については過去最高となりました。

当中間連結会計期間末の連結財政状況につきましては、総資産は前連結会計年度末比15,126百万円増加し、508,126百万円となりました。純資産は同693百万円増加し、17,561百万円となりました。

主要勘定のうち、預金は法人預金をはじめとして増加し、前連結会計年度末比13,741百万円増加の475,453百万円となりました。一方、貸出金は資金需要低迷の影響により、前連結会計年度末比674百万円減少し、373,882百万円となりました。また、有価証券は資金運用力の強化に取組んだ結果、前連結会計年度末比8,495百万円増加し、81,066百万円となりました。

業務面におきましては、地域経済の活性化を図るべく、以下の取組みを実施しました。

平成18年より行っている西日本シティ銀行及び長崎銀行との3行合同商談会をはじめ、平成23年7月の第二地方銀行のネットワークを活用した「『食の魅力』発見プロジェクト2011」商談会等、平成23年度上期中に3回開催し、お客様の販路拡大の支援を行いました。また、同年9月には医療機関及び介護事業者を対象とした「医療経営セミナー」を開催しました。さらに、事業者向けの信用供与策として、銀行保証付私募債「がんばろう大分私募債」の取扱を継続する一方、同月に日本銀行の「成長基盤強化を支援するための資金供給制度」を活用した「ほうわ成長基盤強化ファンド2(知的財産担保融資ファンド)」を創設しました。

また、多様化するお客様のニーズにお応えするため、以下の取組みを実施しました。

個人向けローンにつきましては、変動金利型「教育ローン」、「オートローン」の特別金利キャンペーン継続に加え、平成23年4月にインターネットによる仮審査申込受付を開始しました。預金商品につきましては、「退職金専用定期預金」、「投資信託パック」、「特別金利定期預金『希望』」、「宝くじ付定期預金」、「特別金利定期預金『煌(きらめき)』」の発売を行いました。また、預り商品につきましては、平成23年4月に一時払終身保険2商品、同年8月に一時払終身保険、投資信託商品3商品の取扱をそれぞれ開始し、同年9月には「資産運用セミナー」を開催しました。

更に、地域貢献活動として、平成23年9月に3先の NPO 法人に対し NPO 助成金制度に基づく助成金を贈呈したほか、大分県ゲートボール大会、街かどクリーン作戦、CO2ゼロデー運動等を実施しました。

店舗数につきましては、42か店で、前年度末と変更はございません。なお、店舗外 ATM につきまして、 顧客利便性の更なる向上を図るべく、今春のローソン ATM との提携スタートに向けて準備を進めております が、これによりその特典が更に生かせる会員制の「ほうわサンクスサービス」の会員拡大に一段と注力してま いりたいと考えております。

当行は、前掲の経営理念の下、今後とも役職員一丸となって、「フットワーク力、ネットワーク力のある銀行」として、地域の振興、発展に向け取組んでまいりますので、株主の皆様をはじめ地域の皆様の力強いご支援を賜りますようお願い申し上げます。

業績ハイライト

預金・預り資産の状況〔単体〕(平成23年9月末現在)

預金



総預金残高は平成23年3月末比137億円増加して4,755億円となりました。このうち、個人預金残高は3,458億円となっており、預金全体の72.7%を占めております。

預り資産(投資信託・個人年金保険・公共債)



預り資産残高は平成23年3月末比19億円減少して479億円 となりました。

貸出金の状況〔単体〕(平成23年9月末現在)

貸出金(中小企業向け貸出金)



中小企業等貸出金残高は3,178億円となっており、総貸出金 残高の84.9%と依然高いシェアを占めております。

個人向け貸出金



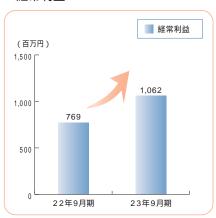
多くのお客さまにご利用いただいた結果、個人ローン残高は 1,024億円となり、このうち住宅ローン残高は894億円となりました。

損益の状況〔単体〕

コア業務純益



経常利益



中間純利益

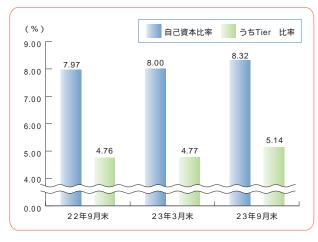


自己資本比率の状況

自己資本額が、23年3月末に比べ単体で14億円、連結で13億円それぞれ増加した結果、自己資本比率は単体で同0.32ポイント、連結で同0.30ポイントそれぞれ上昇し、単体で8.32%、連結で8.36%となりました。また、Tier 比率は単体で5.14%、連結で5.19%となっております。

自己資本比率·Tier 比率

[単体]



[連結]



用語説明

・コア業務純益…預貸金業務などによる「資金利益」や投資信託等の販売手数料などの「役務取引等利益」などを含む「業務粗利益」(除く 国債等債券損益)から経費を差し引いたもので、銀行の本来業務の収益力を表わす指標として一般的に用いられています。

コア業務純益 = 業務粗利益(除く国債等債券損益) - 経費

・自己資本比率…銀行の健全性を示す指標のひとつで、国内基準(4%)と国際基準(8%)があります。 当行は国内基準を採用しております。

> 自己資本比率 = 自己資本(資本金など) リスク度合いを考慮した資産

・Tier 比率…資本金や剰余金など本来の自己資本のみで算出される自己資本比率です。

不良債権の状況〔単体〕

金融再生法に基づく開示債権比率



保全状況(平成23年9月末現在)

(単位:百万円、%)

	債権額	責権額 保全額					
	Α	В	担保保証等	貸倒引当金	B ÷ A		
破産更生債権及びこれら に準ずる債権	3,094	3,094	2,422	671	100.00		
危 険 債 権	7,751	7,039	4,575	2,464	90.81		
要管理債権	358	195	87	107	54.39		
合 計	11,204	10,329	7,085	3,243	92.18		
正常債権	370,428						

用語説明

金融再生法による開示債権の定義

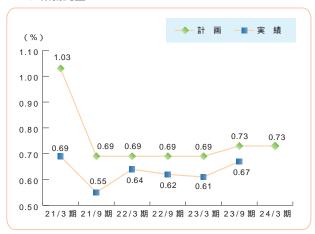
- ・破産更生債権及びこれらに準ずる債権...
 - 破産・会社更生・再生手続等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権をいいます。
- ・危 険 債 権…債務者が経営破綻には至っていないものの、財政状態・経営成績が悪化し、契約どおりの返済を受けることができなくなる可能性の高い債権をいいます。
- ・要管理債権...3ヶ月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権をいいます。

経営強化計画における数値目標の進捗状況

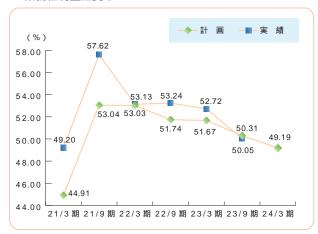
経営強化計画(平成21年8月公表)における数値目標に対する実績は以下のとおりであります。

経営の改善目標

コア業務純益 ROA



業務粗利益経費率



不良債権比率



中小企業に対する信用供与の残高の総資産に占める割合

(単位:億円)

	21/3末	21/9末	22/3末	22/9末	23/3末	23/	24/3末	
	実績	実績	実績	実績	実績	計画	実績	計画
中小企業向け貸出残高	1,738	1,758	1,935	2,011	2,085	1,834	2,083	1,858
総資産残高	4,645	4,747	4,709	4,806	4,926	4,894	5,079	4,954
総資産残高に対する 中小企業向け融資比率	37.41%	37.05%	41.10%	41.85%	42.32%	37.47%	41.01%	37.50%

中小企業には、住宅ローンやその他の個人向けローンは含んでおりません。

経営改善支援等取組先企業の数の取引先の企業の総数に占める割合

(単位:先)

	21/3末	21/9末	22/3末	22/9末	23/3末	23/	24/3末	
	実績	実績	実績	実績	実績	計画	実績	計画
創業・新事業	8	7	6	12	33	10	34	10
経営相談	17	14	15	16	35	15	33	15
事業再生	0	2	1	0	4	2	3	2
担保・保証	86	30	170	68	224	135	286	140
事業承継	0	0	0	0	2	0	2	1
合 計	111	53	192	96	298	162	358	168
取引先総数	5,009	5,197	5,209	5,207	5,134	5,115	5,149	5,145
比率	2.21%	1.01%	3.68%	1.84%	5.80%	3.16%	6.95%	3.26%

取引先総数には個人ローンだけの取引先は含みません。計数は全て半期分を記載しております。 担保・保証とは、担保・保証に過度に依存しない融資のことです。

収益計画

	21/3期実績	21/9期実績	22/3期実績	22/9期実績	23/3期実績	23/9期実績	24/3期計画
業務粗利益	10,024	4,467	9,487	4,856	9,511	4,788	9,880
経費	5,832	3,034	5,928	3,045	5,992	2,876	6,180
コア業務純益	3,346	1,313	3,034	1,495	2,959	1,708	3,610
当期純利益	98	1,194	372	703	986	1,271	1,782

地域の皆さまとともに

地域密着型金融の推進に関する取組み

当行では、お客さまの視点に立ち、質の高いサービスを提供するとともに、地域の中小企業や個人のお客さまへの円滑な資金供給に努め、地域経済の発展に寄与する「地域社会及びお客さまに真に必要とされる銀行」を目指しています。

平成17年4月に事業再生・中小企業金融の円滑化を掲げた地域密着型金融推進計画による取組みを開始しました。そして、平成18年10月から経営強化計画による取組みを加え、「ライフサイクルに応じた取引先企業の支援強化」、「事業価値を見極める融資手法をはじめ中小企業に適した資金供給手法の徹底」、「地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献」を継続的な取組みと考え、地域密着型金融を推進してまいりました。

現在は、経営強化計画による中小企業向け融資比率引上げおよび経営改善支援先数増加の取組みに加え、お取引先へのコンサルティング機能の発揮、ビジネスマッチング、M&A、事業承継、各種経営改善支援・情報の提供等を主な取組みに掲げる地域密着型金融推進運動(平成23年9月より実施)を展開しています。

顧客企業に対するコンサルティング機能の発揮

日常的なリレーション強化による本業支援、外部機関等を活用した経営支援等、様々な取組みを行っており、具体的には、以下の取組みがございます。

- ・地域密着型金融推進運動によるビジネスマッチング、各種商談会の開催
- ・中国ビジネス支援業務に関するキャストコンサルティング株式会社との提携
- ・大分大学と連携した技術相談会、産学連携支援サービスの実施
- ・信用リスク関連研修、営業店案件相談会、審査部留学等の実施による与信判断力、コンサルティング機能を発揮できる体制・人材づくり
- ・ファイナンシャルアドバイザー制度導入、営業店支援グループ新設、M&A業務の取組み強化による事業承継ニーズへの対応
- ・ほうわ成長基盤強化ファンド2、スーパービジネスローン、ビジネスあんしんサポートローン等の商品によるサポート

また、経営改善・事業再生に向けた取組みとして、本部に設置している企業支援室による営業店指導、営業店との帯同訪問、経営改善支援先等協議会の開催等により、本支店一体となって、取引先への経営改善支援をきめ細かく検討、協議しております。加えて、外部機関の中小企業再生支援協議会等との連携により、経営改善計画の策定支援およびモニタリング・フォローを継続して行っております。

中国ビジネス支援業務に関するキャストコンサルティング株式会社との業務提携

お客さまの中国ビジネスに関する市場調査等のコンサルティング、法務・会計・税務等に関するご相談等のニーズにお応えするため、キャストコンサルティング株式会社と業務提携しました。

本邦および中国国内に本社を置く弁護士法人、税理士法人、コンサルティング会社等から成るキャストグループのノウハウを活用し、中国との輸出入や製造・販売拠点の設置等、中国ビジネスをご検討中のお客さまの各種ご相談に対し、専門家による情報連携の場を提供するほか、当行本店において、電話会議により在中国の専門家と直接ご相談いただけるサービスも提供しております。

株式会社日本 M&A センターとの業務提携

お客さまの最大の経営課題の1つである事業承継問題等において、親族内承継、従業員等への承継・外部からの雇い入れ等のほか、企業の合併・買収(M&A)へのニーズが高まっております。

当行では、M&A によるお客さまの経営課題を解決する手法を一層強化するため、本業務に関する各種ノウハウや 全国的なネットワークを有する株式会社日本 M&A センターと業務提携しました。本提携により、多様化するお客さ まのニーズにより一層お応えしてまいります。

「ビジネスあんしんサポートローン(団信付)」取扱開始

平成23年12月、地域のお客さまの幅広い資金ニーズにお応えするため、新たに「ビジネスあんしんサポートローン(団信付)」の取扱いを開始しております。

「ビジネスあんしんサポートローン(団信付)」概要

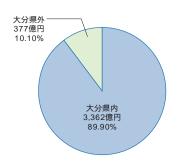
お使いみち	事業性資金(運転資金・設備資金)
ご利用いただける方	当行の営業区域内で事業を営んでいる法人または個人事業者の方で当行の融資基準を満たしている方
ご融資金額	200万円以上1億円以内 審査結果によっては、希望額に添いかねる場合もございます
ご融資期間	1年以上25年以内、ただし資金使途が運転資金の場合は最長10年以内となります

その他の詳細につきましては、営業店窓口または当行ホームページにてご確認ください。

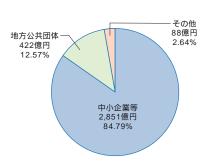
地域への信用供与

当行では、皆さまからお預かりした大切な預金のほとんどを、県内の企業や個人への貸出で運用しております。皆さまからお預かりした預金は地域経済発展の源泉となっています。

総貸出金に占める県内向け 貸出金の割合 (平成23年9月末現在)



県内向け貸出金に占める 中小企業等貸出金の割合 (平成23年9月末現在)



業種別貸出金の状況

	平成23年9月	月末
		構成比
県内向け貸出金合計	336,263	100.00%
製造業	17,511	5.21%
農業、林業	250	0.07%
漁業	125	0.04%
鉱業、採石業、砂利採取業	1,557	0.46%
建設業	22,386	6.66%
電気・ガス・熱供給・水道業	3,035	0.90%
情報通信業	3,910	1.16%
運輸業、郵便業	7,442	2.21%
卸売業・小売業	28,795	8.56%
金融業・保険業	11,895	3.54%
不動産業、物品賃貸業	53,373	15.87%
各種サービス業	51,098	15.20%
地方公共団体	42,282	12.57%
個人その他	92,597	27.54%

地域の面的再生への積極的な参画

地域産業の発展に向けた取組み

地域の観光、食料品・加工関連産業の活性化、および地域に不可欠な医療・福祉関連産業の経営改善支援に向けた取組みを重点的に行っております。また、優れた技術を有する成長基盤の中小・中堅企業を対象とする「ほうわ成長基盤強化ファンド2(知的財産担保融資ファンド)」を平成23年9月に創設しております。

起業家の育成、創業・新事業者を支援する取組みとしては、大分大学主催のアントレプレナーシップセミナー for Kids への参加協力や、大分県産業創造機構主催の大分県ビジネスグランプリ受賞企業への支援等を行っております。

「医療経営セミナー」開催

医療機関・介護事業者等の皆さまに、地域医療・介護サービスの将来像や今後の経営戦略・体質強化策についてお役に立つ情報をお届けするため、医療経営セミナーを開催しております。82名の方にご参加いただいた平成23年9月1日実施の同セミナーでは、診療報酬・介護報酬のダブル改定を見据えた最新の情報や、今後の医療経営に必要な人材の育成方法、医療・介護の複合型経営についての現状や将来展望等について講演を行いました。



次回は、平成24年2月16日の開催を予定しています。詳細につきましては、各営業店または当行ホームページに てご確認ください。

「中国観光客おもてなしフォーラム in おおいた」開催

大分商工会議所、当行および九州カード株式会社の共同主催により、大分県、大分合同新聞社の後援のもと、平成23年11月30日に「中国観光客"おもてなし"フォーラム in おおいた」を開催しました。

本セミナーは、近年増勢の一途にある中国人の旅行客を当地に呼び込み、地域の活性化につなげることを目的として、中国人観光客の動向に詳しい講師を招き、今後のまちづくりの方向性やインフラの整備について、地域の皆さまと一体となって取組む契機とすべく実施しました。



「『食の魅力』発見プロジェクト2011」個別商談会開催

「『食の魅力』発見プロジェクト2011」は、第二地方銀行のネットワークを活用し、「魅力あふれる地域の食」を全国から募り、さまざまな領域における販売活性化のノウハウ注入や多角的なサポートによる新たな商取引拡大を目指すものです。

その一環として、平成23年7月5、6日に開催した同プロジェクト「個別商談会」では、全国に向けた販路拡大を希望する「食」関連の企業と、地域色が豊かな安全で美味しい食材を求める仕入企業の食品担当バイヤーとの商談の場を提供し、ご好評いただきました。



「ほうわ成長基盤強化ファンド2」創設

大分県内には、半導体、自動車、医療機器等製造業、環境エネルギーおよび食品業等をはじめとして、優れた技術を有する中小・中堅企業が数多くございます。

地域に密着した金融機関として、そうした企業が持つ特許権等の知的財産権の価値を評価し、その事業価値に応じて必要資金を供給させていただくことにより、地元経済の成長基盤強化に貢献することを目的として、平成23年9月1日に「ほうわ成長基盤強化ファンド2(知的財産担保融資ファンド)」を創設しました。

本ファンドは、日本銀行の「成長基盤強化を支援するための資金供給」制度の趣旨を踏まえた当行独自の施策です。

地域や利用者に対する積極的な情報発信

当行の取組み状況のお知らせ

当行では、地域密着型金融推進運動による取組み、お取引先が参加できる商談会やセミナー等、地域に根差した活動を展開しております。

これらの取組みについては、下記の方法にて情報発信に努めております。

- ・経営説明会での説明
- ・各種セミナーでの説明
- ・地域密着型金融推進運動の取組みを通した営業行員による説明
- ・ホームページへの掲示

金融円滑化への取組み

地域の中小企業・個人事業主や個人の皆さまへの円滑な資金供給並びに経営改善支援を地域金融機関としての社会的使命と考え、積極的に取組んでいます。

お取引先に対するコンサルティング機能をよりきめ細かく、迅速・的確に発揮するため、「金融円滑化相談窓口」、「金融円滑化相談専用フリーダイヤル」および「金融円滑化苦情相談専用フリーダイヤル」を設置しています。

金融円滑化相談窓口	設置場所:全営業店 受付時間:【銀行営業日】午前9時から午後3時
金融円滑化相談専用フリーダイヤル	電話番号: 0120 - 225 - 027 受付時間:【平日】午前9時から午後7時、 【土・日曜】午前10時から午後4時
金融円滑化苦情相談専用フリーダイヤル	電話番号: 0120 - 135 - 122 受付時間:【平日】午前9時から午後5時

また、「中小企業者等に対する金融の円滑化を図るための臨時措置に関する法律」第4条及び第5条に基づく貸付の条件の変更等の実施状況(平成21年12月4日~平成23年9月30日)は以下のとおりです。

(単位:件、百万円)

									-	
	申込み受付状況		申込み受付状況うち実行		うち謝絶		うち審査中		うち取下げ	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
中小企業向け貸出	2,362	78,915	2,105	73,959	81	830	53	2,367	123	1,758
住宅資金貸出	295	2,926	166	1,692	39	390	9	102	81	741
合 計	2,657	81,841	2,271	75,651	120	1,220	62	2,469	204	2,499

当行は、今後も金融円滑化に向けた取組みを更に強化し、地域金融機関としての役割を果たしてまいります。

地域貢献活動

第4回「NPO 助成金制度」助成金贈呈

当行は、さまざまな地域貢献活動に取組んでおります。本業での地域貢献のみならず、環境や文化、防犯等の幅広い分野に注力し、企業の社会的責任(CSR)活動を通じて、地域の繁栄に寄与してまいります。

そうした取組みの1つとして、地域で活動している NPO 等への助成金を通じて、大分県の環境保護・文化振興・福祉・生活向上を図るために平成20年度より「NPO 助成金制度」を実施しています。

第4回目となる今回は、平成23年7月より募集を行い、厳正な審査の結果、3団体を決定し、同年9月22日に、当行本店において3団体に対して助成金を贈呈しました。



「第19回公募アマチュア絵画展」開催

メセナ活動の一環として「公募アマチュア絵画展」を毎年実施しており、平成23年12月3~10日に第19回目を開催しました。今回は、205点の応募の中からアマチュア大賞をはじめとする各賞が選出され、展示期間中はのべ771名もの絵画愛好家の皆さまに会場へ足を運んでいただきました。



「大分大学開放イベント2011」参加

平成16年8月に大分大学と「連携に関する協定書」(包括連携)を締結して以来、「産学連携支援サービス」や「出張なんでも技術相談会」の継続的な開催、「アントレプレナーシップセミナーfor Kids」への協力等、さまざまな取組みを行ってまいりました。

「大分大学開放イベント」への参加は、本年で7回目にあたり、平成23年11月6日に「出張なんでも技術相談会」や「親と子の食育セミナー~あれとこれを混ぜたらどんな味?~」を開催しました。



地球環境に配慮した取組み

 CO_2 の排出を抑える取組みの1つとして、通勤・外訪活動時に乗用車・バイクを原則使用しない「 CO_2 ゼロデー」を年4回設けております。大分市が実施する「ノーマイカーウィーク」の取組みに協調して行うもので、平成23年12月には第13回目となる「 CO_2 ゼロデー運動」を実施しました。このほかにも、以下のような地球環境に配慮した取組みを継続的・積極的に行っております。

- ・「ウォームビズ」実施 (平成23年12月~平成24年3月末予定)
- ・第48回「街かどクリーン作戦」実施 (平成23年10月)
- ・大分市「もったいない"省エネデー"」参加 (平成23年12月)
- ·LED 照明設置 (平成23年12月 本店営業部)



トピックス

ローソン ATM との提携

地域のお客さまに、より便利にご利用いただけるようローソン ATM との提携に関する合意をいたしました。現在、平成24年春からのサービス開始に向けた準備を進めています。今後も各種サービスの充実に取組んでまいります。

ローソン ATM とは、ローソン店舗に設置された銀行共同利用型 ATM をいい、平成23年12月22日現在46都道府県に8,950台、うち本県には134台設置されています。

「投資信託セミナー」開催

投資信託などの資産運用に興味をお持ちのお客さまを対象に、投資信託セミナーを開催しています。平成23年度は9月に中津支店・わさだ支店・別府支店にて、外部講師を招いてグローバル時代の投資戦略についての説明を行い、59名の方にご参加いただきました。



金融被害防止のためのお願い

「振り込め詐欺」にご注意ください

振り込め詐欺が頻発しています。身に覚えのない不審な請求があった場合は、ご家族や警察に相談して事実関係を確認した上で対処してください。不安な方は安易に振込み等を行わず、最寄りの警察などにご相談ください。

当行では、下記の対応を行っています。

ATM コーナー・銀行ロビーでのポスター掲示およびリーフレット備え置きなどにより、お客さまへの注意喚起を行っています。

携帯電話を使用しながら ATM を操作しているお客さまには積極的にお声かけをしています。

お客さまにおかれましては、大切な財産をだまし取られることのないよう、くれぐれもご注意をお願いします。

銀行員を装った不審な電話や電子メールにご注意ください

銀行員を装った電話や電子メールで、インターネットバンキングのご契約内容などお客さまの情報が盗み出され、預金が引き出される被害や、以下のような不審な勧誘等に関する情報も寄せられていますので、ご注意ください。

銀行の ですが…と名乗り、

- 例1)高利回りの投信や預金などの説明をはじめ、運用商品の勧誘を行う。
- 例2)暗証番号を尋ね、預金を引き出す。
- 例3)低金利融資などの説明をはじめ、融資の保証金などを要求する。

当行から電話や電子メールで、口座番号や暗証番号等をお伺いすることはございません。不審な電話等があった場合は、下記のお問い合わせ先「当行 皆様の相談室」へご連絡ください。

株式会社豊和銀行 皆様の相談室(本店)

電話番号: フリーダイヤル 0120 - 308 - 329

受付時間:【平日】午前9時から午後5時

暗証番号の管理について

暗証番号は、生年月日、電話番号などを避け、他人に推測されにくいものをお使いください。

生年月日・電話番号・住所の地番・自動車のナンバーといった暗証番号は、見破られるおそれがあります。

推測されやすい番号をお使いの場合には、すみやかに変更されることをお勧めします。

店舗・ATM のご案内

店舗のご案内(平成24年1月15日現在)

店舗内 ATM: 土曜日の稼動店

土曜・日曜・祝日の稼動店 視覚障がい者対応 ATM (ハンドセット方式)設置店

		本店営業部	097 (534) 2612
		県庁前支店	097 (532) 9155
		上野支店	097 (545) 0088
		古国府支店	097 (545) 7511
		大道支店	097 (545) 1101
		南大分支店	097 (543) 6116
大		寒田支店	097 (569) 1811
		戸次支店	097 (597) 6288
		宗方支店	097 (541) 5211
分		わさだ支店	097 (586) 1771
מ		富士見が丘支店	097 (541) 4343
		光吉支店	097 (568) 2460
		賀来支店	097 (549) 2441
市		東支店	097 (558) 2121
		明野支店	097 (558) 6366
		牧支店	097 (552) 1137
		下郡支店	097 (567) 2233
		鶴崎支店	097 (527) 3181
		鶴崎南支店	097 (522) 3040
		大在支店	097 (593) 1655
別		別府支店	0977 (23) 4361
		新別府支店	0977 (22) 1221
府		石垣支店	0977 (25) 5311
市		亀川支店	0977 (66) 1151
且出		日出支店	0977 (72) 2821
日出・杵築・国東		杵築支店	0978 (62) 3040
国 東		国東支店	0978 (72) 1221
+		佐伯支店	0972 (22) 1920
大分		津久見支店	0972 (82) 3101
県		臼杵支店	0972 (62) 3171
南部		三重支店	0974 (22) 7111
部		竹田支店	0974 (63) 2125
六		日田支店	0973 (22) 5121
大分県西部		玖珠支店	0973 (72) 6655
部		湯布院支店	0977 (28) 8171
大		中津支店	0979 (23) 3223
分		宇佐支店	0978 (32) 3311
大分県北部		長洲支店	0978 (38) 1136
部		高田支店	0978 (22) 2680
大		福岡支店	092 (291) 0831
大分県外		北九州支店	093 (931) 8841
外		熊本支店	096 (366) 7101
	_	-	

ATM のご案内 (平成24年1月15日現在)

土曜日の稼動店 土曜・日曜・祝日の稼動店 視覚障がい者対応 ATM (ハンドセット方式)

		マルショク東大道店
		ソフィアプラザ
		トキハ会館
		大分市役所
		大分県庁
		大分フォーラス
		JR 大分駅
		ポプラ大分都町2丁目店
		ポプラ大分駅前店
		寒田支店敷戸出張所
大		トキハインダストリー南大分センター
		大分県立病院
分		イオン光吉店
		トキハわさだタウン
市		イオン挾間ショッピングセンター
		ポプラ大分畑中店
		ポプラ畑中西店
		大在支店佐賀関出張所
		パークプレイス大分
		イオン高城店
		トキハインダストリー明野センター
		コープふらいる
		日本文理大学
		大分医療センター
		アムス大在店

		ゆめタウン別府
		B-Passage
別		トキ八別府店
		別府市役所
府		トキハインダストリー鶴見園店
		新別府病院
市		マルショク大学通り店
		スギノイパレス
		溝部学園
显		国東支店安岐出張所
· 杵 築		サンリブ杵築店
· 国 東		大分空港ターミナルビル
大		トキハインダストリー佐伯店
大分県南部		マルショク津久見店
部		サンリブ竹田
大		イオン三光ショッピングセンター
大分県北部		ハイパーモールメルクス宇佐
部		マックスバリュー豊後高田店
県 外		中津支店豊前出張所

上記は当行の単独設置 ATM 又は当行幹事の共同 ATM のみ掲載しております。 このほか共同利用の ATM 等の詳細につきましては、店頭もしくは当行ホームページ にてご案内しております。

HOWA BANK FINANCIAL INFORMATION

資料編

INDEX

連結情報			
当行グループの事業の内容	.16	中間株主資本等変動計算書関係	33
関係会社の状況	.16	リース取引関係	33
当行グループの業績	.16	有価証券関係	33
主要な経営指標等の推移	.16	金銭の信託関係	33
中間連結貸借対照表	.17	デリバティブ取引関係	33
中間連結損益計算書	.18	資産除去債務関係	33
中間連結包括利益計算書	.18	1株当たり情報	33
中間連結株主資本等変動計算書	.18	重要な後発事象	34
中間連結キャッシュ・フロー計算書	.20	貸出金関係	35
中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項	.21	貸出金残高	35
会計上の見積りの変更	.21	中小企業等貸出金	35
追加情報	.22	特定海外債権残高	35
注記事項	.22	貸出金使途別内訳	35
中間連結貸借対照表関係	.22	貸出金の担保別内訳	36
中間連結損益計算書関係	.22	支払承諾見返の担保別内訳	36
中間連結株主資本等変動計算書関係	.22	貸倒引当金・貸出金償却等の内訳	36
中間連結キャッシュ・フロー計算書関係	.23	リスク管理債権	36
リース取引関係	.23	金融再生法開示債権及び引当率・保全率	36
金融商品関係	.23	預金関係	
有価証券関係	.24	預金科目別残高	37
金銭の信託関係	.24	定期預金の残存期間別残高	38
その他有価証券評価差額金	.24	投資有価証券	38
デリバティブ取引関係	.24	保有有価証券残高	38
資産除去債務関係	.24	商品有価証券	39
セグメント情報等	.24	商品有価証券売買高・平均残高	39
1株当たり情報	.25	有価証券の時価情報	39
重要な後発事象	.25	平成23年9月期	39
連結自己資本比率(国内基準)	.26	平成22年9月期	41
連結リスク管理債権	.26	損益関係	42
		粗 利 益	42
W /L I++D		資金運用・調達勘定平均残高、利息、利回り	42
単体情報		受取利息、支払利息の分析	43
当行の業績	.27	その他業務収支の内訳	43
大株主一覧	.27	役務取引の状況	43
主要な経営指標等の推移	.28	諸比率・諸効率	44
中間貸借対照表	.28	総資金利鞘	44
中間損益計算書	.29	利 益 率	44
中間株主資本等変動計算書	.30	預 貸 率	44
重要な会計方針	.31	預 証 率	44
会計上の見積りの変更	.32	単体自己資本比率(国内基準)	45
追加情報	.32	•	
注記事項	.32	11° 1°11 650 01' 1-1010 1-10 1-10 1-10 1-10 1-10 1-	/ BB —
中間貸借対照表関係	.32	バーゼル 第3の柱(市場規律)に基づ	く開示
古明センシ (奈書明 <i>に</i>	0.0	中国的大明二市环	4.0

当行グループの事業の内容

当行グループ(当行及び当行の関係会社)は、当行及び連結子会社1社で構成され、銀行業務を中心にクレジットカード業務などの金融サー ビスに係る事業を行っております。

関係会社の状況

		資本金又は	\ 	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		빌	4行との関係内	容	
名 称	住 所	出資金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の 所有割合(%)	役員の兼任等 (人)	資金援助	営業上の取引	設備の賃貸借	業務提携
(連結子会社) (株)ほうわバンクカード	大分市王子中町	50	クレジットカード業	45.00 [4.00]	1(1)		金銭貸借関係		

当行グループの業績

平成23年度上期における国内経済、大分県内金融経済環境及び当行グループの経営環境につきましては、「当行グループの業績 (P.3)」に 記載の通りであります。

主要な経営指標等の推移

	平成21年9月期 自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日	平成22年9月期 自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日	平成23年9月期 自 平成23年4月 1 日 至 平成23年9月30日	平成22年3月期 自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日	平成23年3月期 自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
連結経常収益 (百万円)	6,209	6,300	6,059	12,760	12,203
連結経常利益(は連結経常損失) (百万円)	1,355	784	1,041	60	1,006
連結中間純利益(は連結中間純損失) (百万円)	1,186	707	1,242	-	-
連結当期純利益 (百万円)	-	-	-	381	989
連結中間包括利益 (百万円)	-	513	1,140	-	-
連結包括利益 (百万円)	-	-	-	-	940
連結純資産額 (百万円)	14,543	16,442	17,561	16,393	16,868
連結総資産額 (百万円)	475,105	480,991	508,126	471,221	493,000
1株当たり純資産額 (円)	60.66	28.71	9.23	36.27	28.04
1株当たり中間純利益金額 (は1株当たり中間純損失金額) (円)	20.03	11.94	20.98	-	-
1株当たり当期純利益金額 (は1株当たり当期純損失金額) (円)	-	-	-	0.38	10.18
潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額 (円)	-	3.03	5.30	-	-
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	3.38
自己資本比率 (%)	3.03	3.38	3.43	3.44	3.39
連結自己資本比率(国内基準) (%)	7.81	8.03	8.36	7.89	8.06
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	23,996	4,931	15,645	2,358	47
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	16,649	2,494	8,420	3,429	863
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	0	843	444	1	846
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高 (百万円)	37,893	37,926	43,082	36,333	36,302
従業員数 (外、平均臨時従業員数) (人)	519 (106)	540 (97)	535 (73)	510 (108)	526 (98)

⁽注) 1. 当行及び連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

⁽注) 1 . 上記連結子会社のうち、有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。 2 . 「議決権の所有割合」欄の [] 内は、「自己と出資、人事、資金、技術、取引等において緊密な関係があることにより自己の意思と同一の内容の議決権を行使すると認められる者」又は「自己の意思と同一の内容の議決権を行使することに同意している者」による所有割合(外書き)であります。

^{3.「}当行との関係内容」の「役員の兼任等」欄の()内は、当行の役員(内書き)であります。

^{2 . 1}株当たり情報の算定上の基礎は、「連結情報」の「1株当たり情報」(P25)に記載しております。

^{3 .} 平成21年9月期及び平成22年3月期の潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり中間(当期)純損失であるため記載してお りません。

^{4 .} 自己資本比率は、(期末純資産の部合計 - 期末新株予約権 - 期末少数株主持分)を期末資産の部の合計で除して算出しております。

^{5.}連結自己資本比率は、銀行法第14条の2の規定に基づく平成18年金融庁告示第19号に定められた算式に基づき算出しております。当行は、国内基準を採用しております。

^{6.}平成21年9月期及び平成22年9月期の平均臨時従業員数は、第2四半期連結会計期間における平均雇用人員数であります。

^{7.}平成22年9月期の連結中間包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、平成22年9月期及び平成23年9月期の中間連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人の監査証明を受けております。

中間連結貸借対照表

資産の部 (単位: 百万円)

区分		平成22年9月30日	平成23年9月30日
現金預け金	6	40,051	45,968
商品有価証券		-	7
有価証券	6 .11 .	76,355	81,066
貸出金	1 .~ 5 .7 .	357,987	373,882
外国為替		609	1,197
その他資産	6.	2,645	2,236
有形固定資産	8 .9 .	8,332	8,081
無形固定資産		151	180
繰延税金資産		1,579	1,769
支払承諾見返		1,274	1,069
貸倒引当金		7,996	7,334
資産の部合計		480,991	508,126

負債及び純資産の部 (単位:百万円)

スタスク 1/10 スピット (単位・					
区分		平成22年9月30日	平成23年9月30日		
(負債の部)					
預 金	6 .	452,147	475,453		
借 用 金		388	3,652		
外国為替		-	3		
社 債	10.	6,700	6,700		
その他負債		2,296	1,948		
賞与引当金		117	116		
退職給付引当金		218	225		
睡眠預金払戻損失引当金		167	169		
再評価に係る繰延税金負債	8 .	1,239	1,224		
支払承諾		1,274	1,069		
負債の部合計		464,549	490,564		
(純資産の部)					
資 本 金		12,495	12,495		
資本剰余金		1,350	1,350		
利益剰余金		2,049	3,149		
自己株式		70	71		
株主資本合計		15,826	16,924		
その他有価証券評価差額金		1,175	1,099		
土地再評価差額金	8 .	1,649	1,628		
その他の包括利益累計額合計		473	528		
少数株主持分		142	108		
純資産の部合計		16,442	17,561		
負債及び純資産の部合計		480,991	508,126		

中間連結損益計算書

(単位:百万円)

(半世.日川口					
区分	平成22年9月期 〔自 平成22年4月 1 日 至 平成22年9月30日	平成23年9月期 〔自 平成23年4月 1 日 至 平成23年9月30日			
経常収益	6,300	6,059			
資金運用収益	4,942	4,776			
うち貸出金利息	4,462	4,415			
うち有価証券利息配当金	463	341			
役務取引等収益	724	764			
その他業務収益	484	390			
その他経常収益 1.	149	128			
経常費用	5,516	5,017			
資金調達費用	563	470			
うち預金利息	462	335			
役務取引等費用	482	469			
その他業務費用	133	158			
営業経費	3,172	3,107			
その他経常費用 2.	1,164	811			
経常利益	784	1,041			
特別利益	120	0			
固定資産処分益	-	0			
償却債権取立益	120	-			
その他の特別利益	0	-			
特別損失	148	29			
固定資産処分損	3	9			
減損損失	2	-			
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	142	-			
その他の特別損失 3.	0	20			
税金等調整前中間純利益	755	1,011			
法人税、住民税及び事業税	13	6			
法人税等調整額	29	204			
法人税等合計	43	198			
少数株主損益調整前中間純利益	712	1,209			
少数株主利益又は少数株主損失()	5	32			
中間純利益	707	1,242			

中間連結包括利益計算書

(単位:百万円)

区分	平成22年9月期 〔自 平成22年4月 1 日 至 平成22年9月30日	平成23年9月期 〔自 平成23年4月 1 日 至 平成23年9月30日
少数株主損益調整前中間純利益	712	1,209
その他の包括利益	198	69
その他有価証券評価差額金	198	69
中間包括利益	513	1,140
親会社株主に係る中間包括利益	508	1,173
少数株主に係る中間包括利益	5	32

中間連結株主資本等変動計算書

区分	平成22年9月期 〔自平成22年4月1日 至平成22年9月30日〕	平成23年9月期 自平成23年4月1日 至平成23年9月30日
株主資本 資本金 当期首残高 当中間期変動額 当中間期変動額合計	12,495	12,495
当中間期末残高	12,495	12,495
資本剰余金 当期首残高 当中間期変動額 当中間期変動額合計	1,350	1,350
当中間期末残高	1,350	1,350

		(単位:百万
	平成22年9月期	平成23年9月期
v /\	〔自 平成22年4月 1 日 至 平成22年9月30日	自 平成23年4月 1 日 至 平成23年9月30日
区 分	₹ 平成22年9月30日 /	₹ 平成23年9月30日 /
利益剰余金		
当期首残高	1,804	2,332
当中間期変動額		
剰余金の配当	463	446
中間純利益	707	1,242
自己株式の処分	-	0
	-	
土地再評価差額金の取崩	1	21
当中間期変動額合計	245	817
当中間期末残高	2,049	3,149
自己株式		
当期首残高	69	70
当中間期変動額		
自己株式の取得	0	0
–		
自己株式の処分	-	0
当中間期変動額合計	0	0
当中間期末残高	70	71
株主資本合計		
当期首残高	15,581	16,108
当中間期変動額	. 5,55	
刺余金の配当	463	446
中間純利益	707	1,242
自己株式の取得	0	0
自己株式の処分	-	0
土地再評価差額金の取崩	1	21
当中間期変動額合計	244	816
当中間期末残高	15,826	16,924
	13,020	10,924
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	976	1,030
当中間期変動額		
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)	198	69
当中間期変動額合計	198	69
当中間期末残高	1,175	1,099
	1,175	1,099
土地再評価差額金		
当期首残高	1,650	1,649
当中間期変動額		
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)	1	21
当中間期変動額合計	1	21
当中間期末残高	1,649	1,628
	1,049	1,020
その他の包括利益累計額合計	* - ·	
当期首残高	674	618
当中間期変動額		
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)	200	90
当中間期変動額合計	200	90
当中間期末残高	473	528
少数株主持分		020
	407	4.44
当期首残高	137	141
当中間期変動額		
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)	4	33
当中間期変動額合計	4	33
当中間期末残高	142	108
··資產合計		
当期首残高	16,393	16,868
	10,090	10,000
当中間期変動額		
剰余金の配当	463	446
中間純利益	707	1,242
自己株式の取得	0	0
自己株式の処分	· ·	0
土地再評価差額金の取崩	1	21
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)	196	123
ALL LODGE AND		
当中間期変動額合計 当中間期末残高	48	693

中間連結キャッシュ・フロー計算書

		(12.200)
	平成22年9月期 〔自平成22年4月1日 至平成22年9月30日〕	平成23年9月期 〔自平成23年4月1日〕 至平成23年9月30日〕
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	755	1,011
減価償却費	164	159
減損損失	2	-
減損損失 貸倒引当金の増減()	80	186
賞与引当金の増減額(は減少)	6	2
	44	46
退職給付引当金の増減額(は減少)	53	3
睡眠預金払戻損失引当金の増減()		
資金運用収益	4,942	4,776
資金調達費用	563	470
有価証券関係損益()	249	210
有形固定資産処分損益(は益)	3	8
無形固定資産処分損益(は益)		0
貸出金の純増()減	5,666	674
預金の純増減()	10,128	13,741
借用金の純増減()	15	948
預け金(日銀預け金を除く)の純増()減	222	727
外国為替(資産)の純増()減	421	87
外国為替(負債)の純増減()	1	0
資金運用による収入	4,964	4,809
資金調達による支出	752	440
その他	63	210
小計	4,944	15,652
	14	17
法人税等の支払額	28	24
営業活動によるキャッシュ・フロー	4.931	15,645
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,001	10,010
***************************************	47.004	47.405
有価証券の取得による支出	47,091	47,425
有価証券の売却による収入 有価証券の償還による収入	22,491 22,197	25,312
	, -	13,697
有形固定資産の取得による支出	72	31
無形固定資産の取得による支出	20	43
有形固定資産の売却による収入	-	70
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,494	8,420
財務活動によるキャッシュ・フロー		
劣後特約付社債の発行による収入	6,618	-
劣後特約付社債の償還による支出	7,000	-
配当金の支払額	461	443
少数株主への配当金の支払額	0	0
自己株式の取得による支出	0	0
自己株式の売却による収入	-	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	843	444
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,592	6,780
現金及び現金同等物の期首残高	36,333	36,302
現金及び現金同等物の中間期末残高	37,926	43,082
· /0mm/>- 0 · /0mm/ 1 /0 /0 /1 1/0 /0 /1 /1/0 /0 /1 /1/0 /0 /1 /1/0 /0 /1 /1/0 /1 /1/0 /1 /1/0 /1 /1/0 /1 /1/0 /1 /1/0 /1/0 /1 /1 /1/0 /1 /1 /1/0 /1 /1 /1/0 /1 /1 /1/0 /1 /1 /1/0 /1 /1 /1/0 /1 /1 /1/0 /1 /1 /1/0 /1 /1/0 /1 /1 /1 /1 /1 /1 /1 /1 /1 /1 /1 /1 /1	0.,020	.0,002

中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

- 1.連結の範囲に関する事項
- (1)連結子会社 1社

主要な連結会社名

(株)ほうわバンクカード

- (2) 非連結子会社は該当ありません。
- 2. 持分法の適用に関する事項
- (1)持分法適用の非連結子会社は該当ありません。
- (2) 持分法適用の関連会社は該当ありません。
- (3)持分法非適用の非連結子会社は該当ありません。
- (4) 持分法非適用の関連会社は該当ありません。
- 3. 連結子会社の中間決算日等に関する事項

連結子会社の中間決算日は次のとおりであります。 9月末日 1社

- 4 . 会計処理基準に関する事項
- (1)商品有価証券の評価基準及び評価方法

商品有価証券の評価は、時価法(売却原価は主として移動平均法により算定)により行っております。

(2)有価証券の評価基準及び評価方法

有価証券の評価は、その他有価証券のうち時価のあるものについては中間連結決算日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は主として移動平均法により算定)、時価を把握することが極めて困難と認められるものについては移動平均法による原価法により行っております。

なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

(3)デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。

(4)減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

当行の有形固定資産は、定率法(ただし、平成10年4月1日以後に取得した建物(建物附属設備を除く。)については定額法)を採用し、年間減価償却費見積額を期間により按分し計上しております。

また、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 34年~47年

その他 4年~20年

連結子会社の有形固定資産については、資産の見積耐用年数に基づき、主として定額法により償却しております。

無形固定資産(リース資産を除く)

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、当行及び連結子会社で定める利用可能期間 (5年)に基づいて償却しております。

(5)繰延資産の処理方法

社債発行費

社債発行費は、その他資産に計上し、社債の償還期間にわたり定額法により償却しております。

(6)貸倒引当金の計上基準

当行の貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者(以下、「破綻先」という。)に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者(以下、「実質破綻先」という。)に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻の状況に陥る可能性が大きいと認められる債務者(以下、「破綻懸念先」という。)に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。

上記以外の債権については、過去の一定期間(算定期間については 将来の予想損失を勘案し9月末及び3月末を基準日とする5算定期間) における貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき計上しておりま す。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署の協力の下に資産査定部署が資産査定を実施しており、その査定結果により上記の引当を行っております。

なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等について は、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる 額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額してお り、その金額は10,516百万円であります。

連結子会社の貸倒引当金は、一般債権については過去の貸倒実績率 等を勘案して必要と認めた額を、貸倒懸念債権等特定の債権について は、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額をそれぞれ引き当て ております。

(7)賞与引当金の計上基準

賞与引当金は、従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当中間連結会計期間に帰属する額を計上しております。

(8)退職給付引当金の計上基準

退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年 度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当中間連 結会計期間末において発生していると認められる額を計上しておりま す。また、過去勤務債務及び数理計算上の差異の費用処理方法は以下 のとおりであります。

過去勤務債務:その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の 年数(9年)による定額法により費用処理

数理計算上の差異:各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤 務期間内の一定の年数(9年)による定額法により按分した額を、 それぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理

なお、会計基準変更時差異(1,407百万円)については、15年による按分額を費用処理することとし、当中間連結会計期間においては同按分額に12分の6を乗じた額を計上しております。

(9)睡眠預金払戻損失引当金の計上基準

睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する 損失を見積り必要と認める額を計上しております。

(10)外貨建資産・負債の換算基準

外貨建資産及び負債については、主として中間連結決算日の為替相場による円換算額を付しております。

(11)リース取引の処理方法

(借手側)

当行及び連結子会社の所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年4月1日前に開始する連結会計年度に属するものについては、通常の賃貸借取引に準じた会計処理によっております。

(12)中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、中間連 結貸借対照表上の「現金預け金」のうち現金及び日本銀行への預け金 であります。

(13)消費税等の会計処理

当行及び連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

会計上の見積りの変更

退職給付引当金の過去勤務債務及び数理計算上の差異の費用処理年数について、従来、従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(15年)で費用処理しておりましたが、平均残存勤務期間がこれを下回ったため、当中間連結会計期間より費用処理年数を9年に変更しております。

これにより、従来の費用処理年数によった場合に比べ、当中間連結会計期間の経常利益、税金等調整前中間純利益は、それぞれ98百万円減少しております。

追加情報

当中間連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正から、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号平成21年12月4日)を適用しております。

なお、「金融商品会計に関する実務指針」(日本公認会計士協会会計制度 委員会報告第14号)に基づき、当中間連結会計期間の「償却債権取立益」 は、「その他経常収益」に計上しておりますが、前中間連結会計期間につ いては遡及処理を行っておりません。

注記事項

中間連結貸借対照表関係

(平成23年9月30日)

1.貸出金のうち、破綻先債権額は629百万円、延滞債権額は10,197 百万円であります。

なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。)のうち、法人税法施行令(昭和40年政令第97号)第96条第1項第3号のイから亦までに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。

また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権 及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を 猶予した貸出金以外の貸出金であります。

- 2.貸出金のうち、3ヵ月以上延滞債権額は80百万円であります。 なお、3ヵ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日 の翌日から3月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に 該当しないものであります。
- 3.貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は358百万円であります。 なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3ヵ月以上延滞債権に該当しないものであります。
- 4.破綻先債権額、延滞債権額、3ヵ月以上延滞債権額及び貸出条件緩 和債権額の合計額は11,266百万円であります。

なお、上記1 から4 に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

- 5.手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号)に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた銀行引受手形、商業手形、荷付為替手形及び買入外国為替は、売却又は(再)担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は、3,617百万円であります。
- 6.担保に供している資産は次のとおりであります。

担保に供している資産

有価証券

10,132百万円

担保資産に対応する債務

預金

488百万円

上記のほか、内国為替決済、公金収納の取引の担保として、預け金 59百万円、有価証券10,077百万円を差し入れております。

また、その他資産のうち保証金は1,027百万円であります。

7.当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約は、契約残存期間が1年以内の任意の時期に無条件で取消可能なもので、融資未実行残高は、17,901百万円であります。

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行及び連結子会社の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これら

の契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行及び連結子会社が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている行内(社内)手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

8.土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号) に基づき、当行の事業用の土地の再評価を行い、評価差額について は、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」 として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」 として純資産の部に計上しております。

再評価を行った年月日

平成10年3月31日

同法律第3条第3項に定める再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第 119号)第2条第4号に定める地価税法第16条に規定する地価税の課 税価格の計算の基礎となる土地の価額に基づいて、奥行価格補正等合 理的な調整を行って算出。

同法律第10条に定める再評価を行った事業用の土地の当中間連結会計期間末における時価の合計額と当該事業用の土地の再評価後の帳

簿価額の合計額との差額

2,724百万円

- 9 . 有形固定資産の減価償却累計額
- 6,191百万円
- 10. 社債は、劣後特約付社債であります。
- 11. 有価証券中の社債のうち、有価証券の私募(金融商品取引法第2条 第3項)による社債に対する保証債務の額は6,120百万円であります。

中間連結損益計算書関係 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)

- 1. その他経常収益には、償却債権取立益68百万円を含んでおります。
- 2. その他経常費用には、貸出金償却435百万円、貸倒引当金繰入額 295百万円を含んでおります。
- 3. その他の特別損失には、金融安定化拠出金にかかる貸倒引当金繰入 額19百万円を含んでおります。

中間連結株主資本等変動計算書関係

(自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)

1.発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する

(単位:千株)

	平成23年4月1日 株式数	平成23年9月期 増加株式数	平成23年9月期 減少株式数	平成23年9月30日 株式数
発行済株式				
普通株式	59,444			59,444
A 種優先株式	6,000			6,000
B 種優先株式	3,000			3,000
C 種優先株式	9,000			9,000
合 計	77,444			77,444
自己株式				
普通株式(注)1,2	234	6	0	240
合 計	234	6	0	240

- (注) 1.普通株式の自己株式の株式数の増加6千株は、単元未満株式の買取による増加であります。
 - のります。 2.普通株式の自己株式の株式数の減少0千株は、単元未満株式の売却による減少で あります。

2.配当に関する事項

(1) 当中間連結会計期間中の配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の 総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年 6月29日 定時株 総 会	普通株式	59	1.0	平成23年 3月31日	平成23年 6月30日
	A 種優先株式	210	35.0	平成23年 3月31日	平成23年 6月30日
	B 種優先株式	24	8.0	平成23年 3月31日	平成23年 6月30日
	C 種優先株式	153	17.0	平成23年 3月31日	平成23年 6月30日

(2)基準日が当中間連結会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生 日が当中間連結会計期間の末日後となるもの 該当事項はありません。

中間連結キャッシュ・フロー計算書関係

(自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)

現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されて いる科目の金額との関係

(単位:百万円)

平成23年9月30日現在

現金預け金勘定45,968定期預け金1,059その他預け金1,826現金及び現金同等物43,082

リース取引関係

(自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)

ファイナンス・リース取引

(借手側)

通常の賃貸借取引に係る方法に準じて会計処理を行っている所有権移転 外ファイナンス・リース取引

1.リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額

(単位:百万円)

	取得価額相当額	減価償却累計額 相当額	中間連結会計 期間末残高相当額
有形固定資産	0	0	0
無形固定資産			
合 計	0	0	0

2 . 未経過リース料期末残高相当額

1年内	0百万円
1年超	- 百万円
合計	0百万円

3 . 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額、支 払利息相当額及び減損損失

支払リース料0百万円減価償却費相当額0百万円支払利息相当額0百万円

4.減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

5 . 利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額と し、各中間連結会計期間への配分方法については、利息法によっており ます。

(減損損失について)

リース資産に配分された減損損失はありません。

金融商品関係 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)

1.金融商品の時価等に関する事項

平成23年9月30日における中間連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められる非上場株式等は、次表には含めておりません。((注2)参照)

(単位:百万円)

			(+4.4)
	中間連結貸借対 照表計上額	時 価	差額
(1)現金預け金	45,968	45,948	20
(2)有価証券	79,751	79,751	-
(3)貸出金	373,882		
貸倒引当金(*1)	7,290		
	366,591	369,051	2,459
資産計	492,312	494,751	2,438
(1)預金	475,453	476,476	1,022
(2)借用金	3,652	3,652	-
(3)社債	6,700	6,439	260
負債計	485,806	486,568	762
デリバティブ取引(*2) ヘッジ会計が適用されて いないもの	0	0	-
デリバティブ取引計	0	0	-

(*1)貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。(*2)その他資産・負債に計上しているデリバティブ取引を一括して表示しております。デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しております。

(注1)金融商品の時価の算定方法

資 産

(1)現金預け金

満期のない預け金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。満期のある預け金のうち、満期が1年以内のものの時価は、帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

満期が1年を超過するものは、当行から独立した第三者の価格 提供者により提示された評価額を時価としております。

(2)有価証券

株式は取引所の価格、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格を時価としております。

投資信託は、公表されている基準価格を時価としております。 自行保証付私募債は、貸出金と同じく、信用格付と契約期間に 応じて、市場金利に信用コストを反映した利率で割り引いて時価 を算定しております。

なお、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、 「有価証券関係」に記載しております。

(3)貸出金

変動金利の貸出金は、短期間で市場金利を反映するため、貸出 先の信用状態が実行後大きく異なっていない限り、時価は帳簿価 額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としておりま

固定金利の貸出金は、一定の期間毎に区分した元利金の合計額を、貸出金の種類及び信用格付、契約期間に応じて、市場金利に信用コストを反映させた利率もしくは同様の新規貸出を行った場合に想定される金利で割り引いて時価を算定しております。

金利の決定方法が特殊な貸出金は、当行から独立した第三者の価格提供者により提示された評価額を時価としております。

返済期限を設けていない貸出金は、返済見込期間及び金利条件 等から、時価は帳簿価額と近似しているものと想定されるため、 帳簿価額を時価としております。

また、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する貸出金等 は、担保及び保証による回収見込額等に基づいて貸倒引当金を算 定しているため、時価は中間連結決算日における中間連結貸借対 照表価額から現在の貸倒引当金を控除した金額に近似しており、 当該価額を時価としております。

負 債

(1)預金

要求払預金は、中間連結決算日に要求された場合の支払額(帳 簿価額)を時価とみなしております。定期預金は、一定の期間毎 に区分した元利金の合計額を、新規に預金を受け入れた場合に使 用する利率で割り引いて時価を算定しております。

(2)借用金

借用金は全て固定金利であり、一定の期間毎に区分した元利金 の合計額を、同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引 いて時価を算定しております。

(3)社債

当行の発行する社債は、市場価格を時価としております。

デリバティブ取引

デリバティブ取引は、主に取引先の為替予約に対するカバー取引を 目的として行っており、オプション価格の計算モデルにより算出した 価額を時価としております。

(注2)時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品は次のと おりであり、金融商品の時価情報の「資産(2)有価証券」には含 まれておりません。

(単位:百万円)

区分	中間連結貸借対照表計上額
非上場株式(*1)(*2)	1,226
組合出資金(*3)	88
合 計	1,315

- (*1)非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから時価開示の対象とはしておりません。 (*2)非上場株式について、当中間連絡会計期間における減損処理はありません。 (*3)組合出資金のうち、組合財産が非上場株式など時価を把握することが極めて困難と 認められるもので構成されているものについては、時価開示の対象とはしておりませ

有価証券関係

(平成23年9月30日)

- 1.中間連結貸借対照表の「有価証券」について記載しております。
- 2.「子会社株式及び関連会社株式」については、中間財務諸表におけ る注記事項として記載しております。
- 1.満期保有目的の債券 該当事項はありません。
- 2. その他有価証券

(単位:百万円)

	種類	中間連結貸借対 照表計上額	取得原価	差額
	株式	1,091	1,001	89
	債券	54,392	54,030	362
中間連結貸借	国債	27,357	27,235	122
対照表計上額が取得原価を	地方債	10,903	10,837	65
超えるもの	社債	16,131	15,957	173
	その他	2,317	2,312	4
	小計	57,801	57,344	456
	株式	1,792	2,214	421
	債券	10,437	10,560	122
中間連結貸借	国債	2,996	3,000	3
対照表計上額が取得原価を	地方債			
超えないもの	社債	7,440	7,559	119
	その他	9,720	10,732	1,012
	小計	21,950	23,506	1,556
合	計	79,751	80,851	1,099

3.減損処理を行った有価証券

その他有価証券のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著し く下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められ ないものについては、当該時価をもって中間連結貸借対照表計上額とす るとともに、評価差額を当中間連結会計期間の損失として処理(以下「減 損処理」という。) しております。

当中間連結会計期間における減損処理はありません。

なお、時価があるものの時価が「著しく下落した」と判断するための 基準は、当中間連結会計期間末の時価が取得原価に比べて50%以上下 落した場合は著しく下落したと判断し、30%以上50%未満下落してい る場合は発行会社の財務内容及び過去の一定期間における時価の推移等 を勘案して判断しております。

金銭の信託関係

(平成23年9月30日)

該当事項はありません。

その他有価証券評価差額金

(平成23年9月30日)

中間連結貸借対照表に計上されている「その他有価証券評価差額金」の 内訳は、次のとおりであります。

(単位:百万円)

	金 額
評価差額	1,099
その他有価証券	1,099
(+)繰延税金資産(又は()繰延税金負債)	
その他有価証券評価差額金(持分相当額調整前)	1,099
その他有価証券評価差額金	1,099

デリバティブ取引関係

(平成23年9月30日)

1.ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引について、取引の対 象物の種類ごとの中間連結決算日における契約額又は契約において定め られた元本相当額、時価及び評価損益並びに当該時価の算定方法は、次 のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリ バティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(1)金利関連取引

該当事項はありません。

(2)通貨関連取引

(単位:百万円)

区分	分	種類	契約額等	契約額等の うち1年超 のもの	時 価	評価損益
店頭		為替予約				
		売建	49		2	2
		買建	48		1	1
	合	計			0	0

- (注)1.上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算書に計上して おります。

 - 2. 時価の算定 オプション価格の計算モデルにより算出した価額を時価としております。
- (3)株式関連取引

該当事項はありません。

(4)債券関連取引

該当事項はありません。

(5)商品関連取引

該当事項はありません。

(6) クレジットデリバティブ取引

該当事項はありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引 該当事項はありません。

資産除去債務関係

(平成23年9月30日)

当中間連結会計期間における当該資産除去債務の総額の増減

期首残高 222百万円 有形固定資産の取得に伴う増加額 - 百万円 0百万円 その他増減額(は減少) 当中間連結会計期間末残高 223百万円

セグメント情報等

(自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)

1.セグメント情報

当行グループは、報告セグメントが銀行業のみであり、当行グループの 業績における「その他」の重要性が乏しいため、記載を省略しております。 なお、「その他」にはクレジットサービス業務が含まれております。

2. 関連情報

(1)サービスごとの情報

	貸出業務	有価証券投資業務	その他	合 計
外部顧客に対 する経常収益	4,553	596	909	6,059

(注)一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。

(2)地域ごとの情報

経常収益

当行グループは、本邦の外部顧客に対する経常収益に区分した金額が中間連結損益計算書の経常収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

有形固定資産

当行グループは、有形固定資産がすべて本邦に所在しているため、記載を省略しております。

(3)主要な顧客ごとの情報

特定の顧客に対する経常収益で中間連結損益計算書の経常収益の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

3.報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

当行グループは、報告セグメントが銀行業のみであり、当行グループの業績における「その他」の重要性が乏しいため、記載を省略しております。なお、「その他」にはクレジットサービス業務が含まれております。

- 4.報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報 該当事項はありません。
- 5. 報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報 該当事項はありません。

1株当たり情報

1.1株当たり純資産額

1株当たり純資産額

9.23円

(注)1株当たり純資産額の算定上の基礎は、次のとおりであります。

純資産の部の合計額
 17,561百万円
 純資産の部の合計額から控除する金額
 18,108百万円
 うち優先株式
 18,000百万円
 うち少数株主持分
 うち定時株主総会決議による優先配当額
 - 百万円
 普通株式に係る中間期末の純資産額
 546百万円

1株当たり純資産額の算定に用いられた

中間期末の普通株式の数 59,204千株

2.1株当たり中間純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1 株当たり中間純利益金額及び算定上の基礎

(1)1株当たり中間純利益金額 20.98円

(算定上の基礎)

中間純利益 1,242百万円 普通株主に帰属しない金額 - 百万円 うち中間優先配当額 - 百万円 普通株式に係る中間純利益 1,242百万円 普通株式の期中平均株式数 59,207千株 (2)潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額 5.30円

(算定上の基礎)

中間純利益調整額- 百万円うち中間優先配当額- 百万円普通株式増加数175,355千株うち優先株式175,355千株

重要な後発事象

該当事項はありません。

連結自己資本比率(国内基準)

(単位:百万円)

	項目	平成22年9月30日	平成23年9月30日
	資本金	12,495	12,495
	うち非累積的永久優先株	9,000	9,000
	新株式申込証拠金	-	-
	資本剰余金	1,350	1,350
	利益剰余金	2,049	3,149
	自己株式()	70	71
	自己株式申込証拠金	-	-
	社外流出予定額()	-	-
	その他有価証券の評価差損()	-	-
	為替換算調整勘定	-	-
基本的項目(Tier 1)	新株予約権	-	-
	連結子法人等の少数株主持分	142	108
	うち海外特別目的会社の発行する優先出資証券	-	-
	営業権相当額()	-	-
	のれん相当額()	-	-
	企業結合等により計上される無形固定資産相当額()	-	-
	証券化取引に伴い増加した自己資本相当額()	1,000	770
	繰延税金資産の控除前の[基本的項目]計(上記各項目の合計額)	-	-
	繰延税金資産の控除金額()	-	-
	計 (A)	14,967	16,262
	うちステップ・アップ金利条項付の優先出資証券 (注1)	-	-
	土地の再評価額と再評価の直前の帳簿価額の差額の45%相当額	1,299	1,283
	一般貸倒引当金	3,255	2,873
	負債性資本調達手段等	6,700	6,700
補完的項目 (Tier 2)	うち永久劣後債務 (注2)	-	-
	うち期限付劣後債務及び期限付優先株 (注3)	6,700	6,700
	計	11,255	10,857
	うち自己資本への算入額 (B)	9,936	9,941
控除項目	控除項目 (注4) (C)	-	-
自己資本額	(A) + (B) - (C) (D)	24,903	26,204
	資産 (オン・バランス) 項目	289,150	293,091
リスク・アセット等	オフ・バランス取引等項目	1,218	1,035
	信用リスク・アセットの額 (E)	290,368	294,127
リスソ・アビット寺	オペレーショナル・リスク相当額に係る額 ((G)/8%) (F)	19,472	19,102
	(参考)オペレーショナル・リスク相当額 (G)	1,557	1,528
	計(E)+(F) (H)	309,841	313,229
連結自己資本比率(国内基準) = D / H × 100 (%)	8.03	8.36
(参考) Tier1比率 = A	/H×100(%)	4.83	5.19

- (注) 1.告示第28条第2項に掲げるもの、すなわち、ステップ・アップ金利等の特約を付すなど償還を行う蓋然性を有する株式等(海外特別目的会社の発行する優先出資証券を含む。)であり ます。
 - 2 . 告示第29条第1項第3号に掲げる負債性資本調達手段で次に掲げる性質のすべてを有するものであります。
 - (1)無担保で、かつ、他の債務に労後する払込済のものであること (2)一定の場合を除き、償還されないものであること (3)業務を継続しながら損失の補てんに充当されるものであること

 - (4)利払い義務の延期が認められるものであること 3 . 告示第29条第1項第4号及び第5号に掲げるものであります。ただし、期限付劣後債務は契約時における償還期間が5年を超えるものに限られております。 4 . 告示第31条第1項第1号から第6号に掲げるものであり、他の金融機関の資本調達手段の意図的な保有相当額、及び第2号に規定するものに対する投資に相当する額が含まれておりま

連結リスク管理債権

項目	平成22年9月30日	平成23年9月30日	増 減	平成23年3月31日
破綻先債権額	991	629	362	554
延滞債権額	11,373	10,197	1,175	11,338
3ヵ月以上延滞債権額	85	80	5	83
貸出条件緩和債権額	656	358	298	642
A 合計	13,107	11,266	1,841	12,618
B 貸出金残高	357,987	373,882	15,895	374,556
C 貸出金に占める割合 A / B	3.66%	3.01%	0.65%	3.36%
D リスク管理債権に占める貸倒引当金	4,928	4,576	352	4,672
E 引当率 D / A	37.60%	40.62%	3.02%	37.03%

当行の業績

平成23年度上半期における金融経済環境につきましては、「当行グループの業績」(P .3) に記載のとおりであります。当行の平成23年9月期の経営成績は、以下のとおりとなりました。

経常収益は6,007百万円、経常費用が4,945百万円、経常利益が1,062百万円、中間純利益は1,271百万円となりました。 貸出金は、前事業年度末比850百万円減少し、374,043百万円となりました。

有価証券は、同8,495百万円増加し、80,727百万円となりました。

預金は、同13,747百万円増加し、475,509百万円となりました。

大株主一覧(平成23年9月30日現在)

【普通株式】

順位	株 主 名	所 有 株 式 数	持 株 比 率
1	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	3,375,000 株	5.67 %
2	株式会社みずほコーポレート銀行	2,658,714	4.47
3	株式会社福岡銀行	2,623,000	4.41
4	日本生命保険相互会社	1,666,700	2.80
5	豊和銀行従業員持株会	1,665,340	2.80
6	株式会社西日本シティ銀行	1,464,500	2.46
7	株式会社福岡中央銀行	1,314,000	2.21
8	株式会社南日本銀行	1,251,169	2.10
9	株式会社宮崎太陽銀行	1,243,000	2.09
10	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,095,000	1.84
	その他の株主 (4,597名)	41,088,477	69.12
	計(4,607名)	59,444,900 株	100.00 %

【A種優先株式】

順位	株 主 名	所 有 株 式 数	持 株 比 率
1	株式会社大分銀行	500,000 株	8.33 %
2	三和酒類株式会社	300,000	5.00
2	二階堂酒造有限会社	300,000	5.00
4	株式会社テレビ大分	100,000	1.66
4	日本生命保険相互会社	100,000	1.66
4	学校法人文理学園	100,000	1.66
7	株式会社大分放送	70,000	1.16
8	綜合警備保障株式会社	60,000	1.00
8	株式会社東部開発	60,000	1.00
10	有限会社大分合同新聞社	50,000	0.83
10	株式会社オーシー	50,000	0.83
10	株式会社熊本ファミリー銀行	50,000	0.83
10	株式会社佐賀共栄銀行	50,000	0.83
10	クローズアップ・ソノヤ株式会社	50,000	0.83
10	トッパン・フォームズ株式会社	50,000	0.83
10	株式会社西日本シティ銀行	50,000	0.83
10	株式会社福岡中央銀行	50,000	0.83
10	株式会社南日本銀行	50,000	0.83
10	株式会社宮崎太陽銀行	50,000	0.83
	その他の株主 (671名)	3,910,000	65.16
	計 (690名)	6,000,000 株	100.00 %

【B 種優先株式】

順位	株 主 名	所 有 株 式 数	持 株 比 率
-	株式会社西日本シティ銀行	3,000,000 株	100.00 %

【C種優先株式】

順位	株	主	名	所有株式数	持 株 比 率
-	株式会社整理回収機構			9,000,000 株	100.00 %

主要な経営指標等の推移

		平成21年9月期 自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日	平成22年9月期 自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日	平成23年9月期 自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日	平成22年3月期 自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日	平成23年3月期 自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
経常収益	(百万円)	6,071	6,181	6,007	12,509	11,980
経常利益(は経常損失)	(百万円)	1,384	769	1,062	78	993
中間純利益(は中間純損失)	(百万円)	1,194	703	1,271	-	-
当期純利益	(百万円)	-	-	-	372	986
資本金	(百万円)	12,495	12,495	12,495	12,495	12,495
発行済株式総数	(千株)	普通株式 59,444 優先株式 18,000	普通株式 59,444 優先株式 18,000	普通株式 59,444 優先株式 18,000	普通株式 59,444 優先株式 18,000	普通株式 59,444 優先株式 18,000
純資産額	(百万円)	14,313	16,202	17,386	16,162	16,630
総資産額	(百万円)	474,756	480,658	507,974	470,884	492,677
預金残高	(百万円)	447,566	452,194	475,509	442,069	461,761
貸出金残高	(百万円)	332,304	358,304	374,043	352,636	374,894
有価証券残高	(百万円)	92,994	76,015	80,727	73,581	72,231
1株当たり中間純利益金額 (は1株当たり中間純損失金額)	(円)	20.16	11.88	21.48	-	-
1株当たり当期純利益金額 (は1株当たり当期純損失金額)	(円)	-	-	-	0.53	10.13
潜在株式調整後1株当たり中 間純利益金額	(円)	-	3.02	5.42	-	-
潜在株式調整後1株当たり当 期純利益金額	(円)	-	-	-	-	3.37
1株当たり配当額 (内、1株当たり中間配当額)	(円)	普通株式 - (-)優先株式 - (-)	普通株式 - (-) 優先株式 - (-)	普通株式 - (-) 優先株式 - (-)	普通株式 1.00 (-) A 種優先株 35.00 (-) B 種優先株式 8.00 (-) C 種優先株式 18.90 (-)	普通株式 1.00 (-) A 種優先株 35.00 (-) B 種優先株式 8.00 (-) C 種優先株式 17.00 (-)
自己資本比率	(%)	3.01	3.37	3.42	3.43	3.37
単体自己資本比率(国内基準)	(%)	7.70	7.97	8.32	7.81	8.00
従業員数 [外、平均臨時従業員数]	(人)	513 [106]	534 [97]	530 [73]	505 [108]	521 [98]

- (注)1.消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

 - 2. 自己資本比率は、(期末純資産の部合計・期末新株予約権)を期末資産の部の合計で除して算出しております。
 3. 単体自己資本比率は、銀行法第14条の2の規定に基づく平成18年金融庁告示第19号に定められた算式に基づき算出しております。当行は国内基準を採用しております。
 4. 平成21年9月期及び平成22年9月期の平均臨時従業員数は、第2四半期会計期間における平均雇用人員数であります。

金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、平成22年9月期及び平成23年9月期の中間財務諸表について、新日本有限責任監査法人 の監査証明を受けております。

(単位・五万円)

中間貸借対照表

資産の部

貝圧の叩			(単位:日月円)
区分		平成22年9月30日	平成23年9月30日
現金預け金	7.	40,050	45,968
商品有価証券		-	7
有価証券	1.7.12.	76,015	80,727
貸出金	2. ~ 6.8.	358,304	374,043
外国為替		609	1,197
その他資産	7.	2,241	2,186
有形固定資産	9.10.	8,328	8,078
無形固定資産		151	179
繰延税金資産		1,534	1,771
支払承諾見返		1,274	1,069
貸倒引当金		7,852	7,256
資産の部合計		480,658	507,974

負債及び純資産の部 (単位:百万円)

区分		平成22年9月30日	平成23年9月30日
(負債の部)			
預金	7.	452,194	475,509
借用金		388	3,652
外国為替		-	3
社債	11.	6,700	6,700
その他負債		2,155	1,916
未払法人税等		42	40
資産除去債務		220	223
その他の負債		1,892	1,653
賞与引当金		116	116
退職給付引当金		218	225
睡眠預金払戻損失引当金		167	169
再評価に係る繰延税金負債	9.	1,239	1,224
支払承諾		1,274	1,069
負債の部合計		464,455	490,588
(純資産の部)			
資本金		12,495	12,495
資本剰余金		1,350	1,350
資本準備金		1,350	1,350
利益剰余金		1,952	3,082
利益準備金		92	181
その他利益剰余金		1,859	2,900
繰越利益剰余金		1,859	2,900
自己株式		70	71
株主資本合計		15,728	16,857
その他有価証券評価差額金		1,175	1,099
土地再評価差額金	9.	1,649	1,628
評価・換算差額等合計		473	528
純資産の部合計		16,202	17,386
負債及び純資産の部合計		480,658	507,974
		I.	

中間損益計算書

区分	平成22年9月期 〔自 平成22年4月 1 日 至 平成22年9月30日	平成23年9月期 〔自 平成23年4月 1 日 至 平成23年9月30日
経常収益	6,181	6,007
資金運用収益	4,864	4,744
うち貸出金利息	4,388	4,386
うち有価証券利息配当金	460	338
役務取引等収益	683	752
その他業務収益	484	390
その他経常収益 1.	147	120
経常費用	5,411	4,945
資金調達費用	562	470
うち預金利息	462	335
役務取引等費用	482	469
その他業務費用	131	158
営業経費 2.	3,098	3,040
その他経常費用 3.	1,136	806
経常利益	769	1,062
特別利益	120	-
特別損失 4.	1 4 8	29
税引前中間純利益	741	1,032
法人税、住民税及び事業税	7	6
法人税等調整額	30	246
法人税等合計	37	239
中間純利益	703	1,271

中間株主資本等変動計算書

		(単位:百万円)
	平成22年9月期	平成23年9月期
	〔自 平成22年4月 1 日 至 平成22年3月30日	自 平成23年4月 1 日 至 平成23年9月30日
区分	(± +1,022+3/130-17	(主干版23年9月30日)
株主資本		
資本金	10.105	10.105
当期首残高	12,495	12,495
当中間期変動額		
当中間期変動額合計	-	-
当中間期末残高	12,495	12,495
資本剰余金		
資本準備金	4.0-0	
当期首残高	1,350	1,350
当中間期変動額		
当中間期変動額合計 当中間期末残高	1.250	1 250
	1,350	1,350
資本剰余金合計	4.050	4.050
当期首残高	1,350	1,350
当中間期変動額		
当中間期変動額合計	4.050	4.050
当中間期末残高	1,350	1,350
利益剰余金		
利益準備金		22
当期首残高	-	92
当中間期変動額		22
剰余金の配当	92	89
当中間期変動額合計	92	89
当中間期末残高	92	181
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金		0.440
当期首残高	1,710	2,143
当中間期変動額		
剰余金の配当	555	535
中間純利益	703	1,271
自己株式の処分	Ţ	0
土地再評価差額金の取崩	1	21
当中間期変動額合計	149	757
当中間期末残高	1,859	2,900
利益剰余金合計	4.740	0.005
当期首残高	1,710	2,235
当中間期変動額	400	440
剰余金の配当	463	446
中間純利益 自己株式の処分	703	1,271
		0
土地再評価差額金の取崩	1	21
当中間期変動額合計	241	846
当中間期末残高	1,952	3,082
自己株式		70
当期首残高	69	70
当中間期変動額	_	
自己株式の取得	0	0
自己株式の処分	-	0
当中間期変動額合計	0	0
当中間期末残高	70	71
株主資本合計	45.407	10.011
当期首残高	15,487	16,011
当中間期変動額	400	440
剰余金の配当	463	446
中間純利益	703	1,271
自己株式の取得	0	0
自己株式の処分		0
土地再評価差額金の取崩	1	21
当中間期変動額合計	240	846
当中間期末残高	15,728	16,857

	平成22年9月期	平成23年9月期
	「自平成22年4月1日」	自平成23年4月1日
区分	至 平成22年9月30日	↓至 平成23年9月30日 ↓
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	976	1,030
当中間期変動額		
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)	198	69
当中間期変動額合計	198	69
当中間期末残高	1,175	1,099
土地再評価差額金		
当期首残高	1,650	1,649
当中間期変動額		
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)	1	21
当中間期変動額合計	1	21
当中間期末残高	1,649	1,628
評価・換算差額等合計		
当期首残高	674	618
当中間期変動額		
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)	200	90
当中間期変動額合計	200	90
当中間期末残高	473	528
純資産合計		
当期首残高	16,162	16,630
当中間期変動額		
剰余金の配当	463	446
中間純利益	703	1,271
自己株式の取得	0	0
自己株式の処分	-	0
土地再評価差額金の取崩	1	21
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)	200	90
当中間期変動額合計	40	755
当中間期末残高	16,202	17,386

重要な会計方針

1. 商品有価証券の評価基準及び評価方法

商品有価証券の評価は、時価法(売却原価は主として移動平均法により算定)により行っております。

2 . 有価証券の評価基準及び評価方法

有価証券の評価は、子会社株式及び関連会社株式については移動平均法による原価法、その他有価証券のうち時価のあるものについては中間決算日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は主として移動平均法により算定)、時価を把握することが極めて困難と認められるものについては移動平均法による原価法により行っております。

なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により 処理しております。

3. デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。

4. 固定資産の減価償却の方法

(1)有形固定資産(リース資産を除く)

有形固定資産は、定率法(ただし、平成10年4月1日以後に取得した建物(建物附属設備を除く。)については定額法)を採用し、年間減価償却費見積額を期間により按分し計上しております。なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 34年~47年

その他 4年~20年

(2)無形固定資産(リース資産を除く)

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、行内における利用可能期間(5年)に基づいて償却しております。

5. 繰延資産の処理方法

社債発行費の処理方法

社債発行費は、その他資産に計上し、社債の償還期間にわたり定額法により償却しております。

6 . 引当金の計上基準

(1)貸倒引当金

貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり 計上しております。

破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者(以下、「破綻先」という。)に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者(以下、「実質破綻先」という。)に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻の状況に陥る可能性が大きいと認められる債務者に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。

上記以外の債権については、過去の一定期間(算定期間については 将来の予想損失を勘案し9月末及び3月末を基準日とする5算定期間) における貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき計上しておりま す。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署の協力の下に資産査定部署が資産査定を実施しており、その査定結果により上記の引当を行っております。

なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等について は、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる 額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額してお り、その金額は10,516百万円であります。

(2)賞与引当金

賞与引当金は、従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当中間会計期間に帰属する額を計上しております。

(3)退職給付引当金

退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末 における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当中間会計期 間末において発生していると認められる額を計上しております。ま た、過去勤務債務及び数理計算上の差異の費用処理方法は以下のとお りであります。 過去勤務債務:その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の 年数(9年)による定額法により費用処理

数理計算上の差異:各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(9年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理

なお、会計基準変更時差異(1,407百万円)については、15年による按分額を費用処理することとし、当中間会計期間においては同按分額に12分の6を乗じた額を計上しております。

(4)睡眠預金払戻損失引当金

睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する 損失を見積り必要と認める額を計上しております。

7. 外貨建資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建資産・負債については、中間決算日の為替相場による円換算額を付しております。

8. リース取引の処理方法

(借手側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年4月1日前に開始する事業年度に属するものについては、通常の賃貸借取引に準じた会計処理によっております。

9. 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税(以下、消費税等という)の会計処理は、税抜方式によっております。

ただし、有形固定資産に係る控除対象外消費税等は当中間会計期間の費用に計上しております。

会計上の見積りの変更

退職給付引当金の過去勤務債務及び数理計算上の差異の費用処理年数について、従来、従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(15年)で費用処理しておりましたが、平均残存勤務期間がこれを下回ったため、当中間会計期間より費用処理年数を9年に変更しております。

これにより、従来の費用処理年数によった場合に比べ、当中間会計期間 の経常利益、税引前中間純利益は、それぞれ98百万円減少しております。

追加情報

当中間会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正から、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号平成21年12月4日)を適用しております。

なお、「金融商品会計に関する実務指針」(日本公認会計士協会会計制度 委員会報告第14号)に基づき、当中間会計期間の「償却債権取立益」は、 「その他経常収益」に計上しておりますが、前中間会計期間については遡 及処理を行っておりません。

注記事項

中間貸借対照表関係

(平成23年9月30日)

1. 関係会社の株式総額

22百万円

2.貸出金のうち、破綻先債権額は616百万円、延滞債権額は10,167 百万円であります。

なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。)のうち、法人税法施行令(昭和40年政令第97号)第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。

また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権 及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を 猶予した貸出金以外の貸出金であります。

3.貸出金のうち、3ヵ月以上延滞債権はありません。

なお、3ヵ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。

4.貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は358百万円であります。

なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3ヵ月以上延滞債権に該当しないものであります。

5.破綻先債権額、延滞債権額、3ヵ月以上延滞債権額及び貸出条件緩 和債権額の合計額は11,142百万円であります。

なお、上記2 から5 に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

- 6.手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計 上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告 第24号)に基づき金融取引として処理しております。これにより受 け入れた銀行引受手形、商業手形、荷付為替手形及び買入外国為替 は、売却又は(再)担保という方法で自由に処分できる権利を有して おりますが、その額面金額は、3,617百万円であります。
- 7. 担保に供している資産は次のとおりであります。

担保に供している資産

有価証券 10,132百万円

担保資産に対応する債務

預金 488百万円

上記のほか、内国為替決済、公金収納の取引の担保として、預け金 59百万円、有価証券10,077百万円を差し入れております。

また、その他資産のうち保証金は1,027百万円であります。

8. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約は、契約残存期間が1年以内の任意の時期に無条件で取消可能なもので、融資未実行残高は、18,480百万円であります。

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている行内手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

9.土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)に基づき、事業用の土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

再評価を行った年月日

平成10年3月31日

同法律第3条第3項に定める再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令

第119号)第2条第4号に定める地価税法第16条に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額に基づいて、奥行価格補正等合理的な調整を行って算出。

同法律第10条に定める再評価を行った事業用の土地の当中間会計期間末における時価の合計額と当該事業用の土地の再評価後の帳簿価額の合計額との差額。 2.724百万円

10. 有形固定資産の減価償却累計額

2,724百万円 6.183百万円

- 11. 社債は、劣後特約付社債であります。
- 12. 有価証券中の社債のうち、有価証券の私募(金融商品取引法第2条 第3項)による社債に対する保証債務の額は6,120百万円であります。

中間損益計算書関係 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)

- 1.「その他経常収益」には、償却債権取立益68百万円を含んでおります。
- 2.減価償却実施額は下記のとおりであります。

有形固定資産 116百万円 無形固定資産 33百万円

- 3.「その他経常費用」には、貸出金償却430百万円、貸倒引当金繰入 額321百万円を含んでおります。
- 4.「その他の特別損失」には、金融安定化拠出金にかかる貸倒引当金 繰入額19百万円を含んでおります。

中間株主資本等変動計算書関係

(自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

(単位:千株)

	平成23年4月1日 株式数	平成23年9月期 増加株式数	平成23年9月期 減少株式数	平成23年9月30日 株式数
自己株式				
普通株式(注)1,2	234	6	0	240
合 計	234	6	0	240

(注) 1. 普通株式の株式数の増加6千株は、単元未満株式の買取による増加であります。 2. 普通株式の株式数の減少0千株は、単元未満株式の売却による減少であります。

リース取引関係

(自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)

(借手側)

通常の賃貸借取引に係る方法に準じて会計処理を行っている所有権移転 外ファイナンス・リース取引

1. リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計 額相当額及び期末残高相当額

(単位:百万円)

			(1 12 - 17313)
	取得価額相当額	減価償却累計額 相当額	中間会計期間末 残高相当額
有形固定資産	0	0	0
無形固定資産			
合計	0	0	0

2 . 未経過リース料期末残高相当額

1年内	0百万円
1年超	- 百万円
合計	0百万円

3 . 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額、支 払利息相当額及び減損損失

 支払リース料
 0百万円

 減価償却費相当額
 0百万円

 支払利息相当額
 0百万円

4 . 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

5. 利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額 とし、各中間会計期間への配分方法については、利息法によっており ます。

(減損損失について)

リース資金に配分された減損損失はありません。

有価証券関係 (平成23年9月30日)

子会社株式及び関連会社株式

子会社株式及び関連会社株式で時価のあるものはありません。

(注)時価を把握することが極めて困難と認められる子会社及び関連会 社株式

	中間貸借対照表計上額(百万円)		
子会社株式	22		
合 計	22		

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「子会社株式及び関連会社株式」には含めておりません。

金銭の信託関係

(平成23年9月30日)

該当事項はありません。

デリバティブ取引関係

(平成23年9月30日)

1.ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引について、取引の 対象物の種類ごとの中間決算日における契約額又は契約において定め られた元本相当額、時価及び評価損益並びに当該時価の算定方法は、 次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体が デリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(1)金利関連取引

該当事項はありません。

(2)通貨関連取引

(単位:百万円)

区分	種類	契約額等	契約額等のうち 1年超のもの	時価	評価損益
店頭	為替予約				
	売建	49	-	2	2
	買建	48	-	1	1
合 計		-	-	0	0

- (注) 1.上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間損益計算書に計上しております。
 - ます。 2.時価の算定

オプション価格の計算モデルにより算出した価額を時価としております。

(3)株式関連取引

該当事項はありません。

(4)債券関連取引

該当事項はありません。

(5)商品関連取引

該当事項はありません。

(6)クレジットデリバティブ取引

該当事項はありません。

 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引 該当事項はありません。

資産除去債務関係

(平成23年9月30日)

当中間会計期間における当該資産除去債務の総額の増減

期首残高	222百万円
有形固定資産の取得に伴う増加額	- 百万円
その他増減額(は減少)	0百万円
当中間会計期間末残高	223百万円

1株当たり情報 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)

1株当たり中間純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額及び算定上の基礎

(1)1株当たり中間純利益金額21.48円(算定上の基礎)中間純利益1,271百万円

 普通株主に帰属しない金額
 - 百万円

 うち中間優先配当額
 - 百万円

 普通株式に係る中間純利益
 1,271百万円

 普通株式の期中平均株式数
 59,207千株

 (2)潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額
 5.42円

(算定上の基礎)

 中間純利益調整額
 - 百万円

 うち中間優先配当額
 - 百万円

 普通株式増加数
 175,355千株

 うち優先株式
 175,355千株

重要な後発事象

該当事項はありません。

(参考)

デリバティブ取引関係

(平成22年9月30日)

1.ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引について、取引の対 象物の種類ごとの中間決算日における契約額又は契約において定められ た元本の相当額、時価及び評価損益並びに当該時価の算定方法は、次の とおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバ ティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(1)金利関連取引

該当ありません。

(2)通貨関連取引

区分	種類	契約額等	契約額等 のうち1年 超のもの	時 価	評価損益
店頭	為替予約				
	売建	41	-	2	2
	買建	40	-	2	2
合	計	-	-	0	0

- (注) 1 . 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間損益計算書に計上しております。
 2 . 時価の算定
 オブション価格の計算モデルにより算定しております。
- (3)株式関連取引 該当ありません。
- (4)債券関連取引
- 該当ありません。
- (5)商品関連取引 該当ありません。
- (6) クレジットデリバティブ取引 該当ありません。
- 2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引 該当ありません。

貸出金関係

貸出金残高

(単位:百万円)

						() /		
「抑士残官」		平成22年9月30日		平成23年9月30日				
[期末残高]	期末残高	期末残高			期末残高			
		国内業務部門	国際業務部門		国内業務部門	国際業務部門		
割引手形	3,662	3,662	-	3,617	3,617	-		
手形貸付	23,841	23,841	-	23,931	23,931	-		
証書貸付	312,637	312,637	-	328,949	328,949	-		
当座貸越	18,162	18,162	-	17,544	17,544	-		
合 計	358,304	358,304	-	374,043	374,043	-		

(単位:百万円)

[平均残高]			平成22年9月30日		平成23年9月30日			
		平均残高			平均残高			
			国内業務部門	国際業務部門		国内業務部門	国際業務部門	
割引手形		4,036	4,036	-	3,955	3,955	-	
手形貸付		23,929	23,929	-	23,010	23,010	-	
証書貸付		305,951	305,951	-	325,410	325,410	-	
当座貸越		16,467	16,467	-	17,382	17,382	-	
合	計	350,383	350,383	-	369,759	369,759	-	

(単位:百万円)

[残存期間別残高]	平成22年9月30日				平成23年9月30日									
[%仔期间別%高]	1年以下	1 年 超 3年以下	3 年 超 5年以下	5 年 超 7年以下	7 年 超	期 間 の 定 め の ないもの	合 計	1年以下	1 年 超 3年以下	3 年 超 5年以下	5 年 超 7年以下	7 年 超	期 間 の 定 め の ないもの	合 計
貸出金	41,752	31,030	40,227	33,601	193,518	18,174	358,304	45,683	33,734	40,108	28,393	208,557	17,565	374,043
うち変動金利	-	7,067	12,928	16,545	95,808	-	-	-	8,945	13,889	15,342	96,417	-	-
うち固定金利	-	23,963	27,299	17,055	97,709	-	-	-	24,788	26,218	13,051	112,140	-	-

⁽注)残存期間1年以下の貸出金については、変動金利、固定金利の区別をしておりません。

中小企業等貸出金

(単位:百万円、件)

	平成22年9月30日			平成23年9月30日			
	総貸出金	中小企業等貸出金	総貸出に占める比率	総貸出金	中小企業等貸出金	総貸出に占める比率	
貸出金残高	358,304	308,459	86.08%	374,043	317,890	84.98%	
貸出先件数	22,201	22,155	99.79%	21,876	21,829	99.78%	

特定海外債権残高

該当ありません。

貸出金使途別内訳

(単位:百万円)

平成22年9月30日		平成22年9月30日	平成23年9月30日
設備資金		183,051(51.09%)	187,163(50.04%)
運転資金		175,253(48.91%)	186,880(49.96%)
合	計	358,304(100.00%)	374,043(100.00%)

(注)()内数値は構成比であります。

⁽注) 1.貸出金残高には、特別国際金融取引勘定分は含まれておりません。 2.中小企業等とは、資本金3億円(ただし、卸売業は1億円、小売業、飲食業、物品賃貸業等は5千万円)以下の会社又は常用する従業員が300人(ただし、卸売業、物品賃貸業等は100人、小売業、飲食業は50人、サービス業は100人)以下の企業等であります。

貸出金の担保別内訳

(単位:百万円)

	平成22年9月30日	平成23年9月30日
自行預金	4,587	4,422
有価証券	237	203
債権	34	26
商品	-	-
不動産	91,172	92,927
財団	-	-
その他	-	-
小計	96,032	97,580
保証	107,299	107,814
信用	154,972	168,648
合 計	358,304	374,043

支払承諾見返の担保別内訳

(単位:百万円)

	平成22年9月30日	平成23年9月30日
自行預金	49	46
有価証券	4	4
債権	-	-
商品	-	-
不動産	234	245
財団	-	-
その他	-	-
小 計	288	295
保証	72	33
信用	913	740
合 計	1,274	1,069

貸倒引当金・貸出金償却等の内訳

(単位:百万円)

	平成22年9月30日	平成23年9月30日	増減
貸倒引当金	7,852	7,256	595
一般貸倒引当金	3,193	2,829	364
個別貸倒引当金	4,659	4,427	231

(注)個別貸倒引当金には、「その他資産」中、ゴルフ会員権等に対する引当金を含んでおります。

貸出金償却	815	430	385
個別貸倒引当金純繰入額	612	612 512	
債権売却損	10	1	9
部分直接償却実施に伴う償却債権取立益	-	68	68
その他	19	0	18
合 計	1,437	873	563

リスク管理債権

(単位:百万円)

平成22年9月30日	平成23年9月30日	増減
975	616	358
11,293	10,167	1,125
-	-	-
656	358	298
12,925	11,142	1,782
358,304	374,043	15,739
3.60%	2.97%	0.63%
4,853	4,498	355
37.55%	40.37%	2.82%
	975 11,293 - 656 12,925 358,304 3.60% 4,853	975 616 11,293 10,167

金融再生法開示債権及び引当率・保全率

		* * * * * * * * * * * * * * * * * * * *
	平成22年9月30日	平成23年9月30日
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	4,184	3,094
危険債権	8,100	7,751
要管理債権	656	358
正常債権	347,014	370,428
総与信残高	359,956	381,632
金融再生法開示債権比率	3.59%	2.93%

(単位:百万円、%)

			平成23年9月30日						
		貸出金等残高 A	担保保証等	回 収 が 懸 念 される額A - B	貸倒引当金 C	引 当 率 C /(A - B)	保 全 率 (B+C)/A		
破	産更生債権及びこれらに準ずる債権	3,094	2,422	671	671	100.00	100.00		
	(自己査定における破綻債権)	617	327	289	289	100.00	100.00		
	(自己査定における実質破綻債権)	2,476	2,095	381	381	100.00	100.00		
危	険債権	7,751	4,575	3,176	2,464	77.59	90.81		
	(自己査定における破綻懸念債権)	7,751	4,575	3,176	2,464	77.59	90.81		
要	管理債権	358	87	270	107	39.62	54.39		
	合 計	11,204	7,085	4,118	3,243	78.74	92.18		

- (注) 1.「破産更生債権及びこれに準ずる債権」とは、破産、会社更生、再生手続等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。
 2.「危険債権」とは、債務者が経営破綻の状態に至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に 従った債権の元本の回収及び利息の受取ができない可能性の高い債権です。
 3.「要管理債権」とは、3ヵ月以上延滞債権および貸出条件を緩和している債権です。
 4.「正常債権」とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、上記1から3までに掲げる債権以外のものに区分される債権です。

預金関係

預金科目別残高

(単位:百万円、%)

[期末残高]			平成22年9月30日		平成23年9月30日		
LA	1木%同]	期末残高			期末残高		
			国内業務部門	国際業務部門		国内業務部門	国際業務部門
	流動性預金	137,015(30.3)	137,015(30.3)	- (-)	143,802(30.2)	143,802(30.3)	- (-)
預	うち有利息預金	108,144(23.9)	108,144(23.9)	- (-)	113,214(23.8)	113,214(23.8)	- (-)
175	定期性預金	311,410(68.8)	311,410(68.9)	- (-)	327,650(68.9)	327,650(69.0)	- (-)
	うち固定自由金利定期預金	311,410(68.8)	311,410(68.9)	- (-)	327,649 (68.9)	327,649(69.0)	- (-)
	うち変動自由金利定期預金	0(0.0)	0(0.0)	- (-)	0(0.0)	0(0.0)	- (-)
金	その他	3,768(0.8)	3,212(0.7)	556(100.0)	4,056(0.8)	2,977(0.6)	1,079(100.0)
	合 計	452,194(100.0)	451,638 (100.0)	556(100.0)	475,509(100.0)	474,430 (100.0)	1,079(100.0)
	譲渡性預金	-(-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
	総 合 計	452,194(100.0)	451,638 (100.0)	556(100.0)	475,509(100.0)	474,430 (100.0)	1,079(100.0)

(単位:百万円、%)

						(+14.11)	
[平均残高]			平成22年9月期 〔自平成22年4月1日〕 至平成22年9月30日〕			平成23年9月期 自平成23年4月1日 至平成23年9月30日	
L	-1-17%同]	平均残高			平均残高		
			国内業務部門	国際業務部門		国内業務部門	国際業務部門
	流動性預金	134,066(30.1)	134,066(30.1)	- (-)	140,647(29.8)	140,647(29.8)	- (-)
預	うち有利息預金	105,732(23.7)	105,732(23.7)	- (-)	111,220(23.5)	111,220(23.6)	- (-)
1.15	定期性預金	309,650(69.5)	309,650(69.5)	- (-)	328,255(69.6)	328,255(69.7)	- (-)
	うち固定自由金利定期預金	309,649(69.5)	309,649(69.5)	- (-)	328,255(69.6)	328,255(69.7)	- (-)
	うち変動自由金利定期預金	0(0.0)	0(0.0)	- (-)	0(0.0)	0(0.0)	- (-)
金	その他	1,646(0.3)	1,435(0.3)	211(100.0)	2,615(0.5)	1,535(0.3)	1,080(100.0)
	合 計	445,363(100.0)	445,152(100.0)	211(100.0)	471,518 (100.0)	470,438(100.0)	1,080(100.0)
	譲渡性預金	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
	総 合 計	445,363(100.0)	445,152(100.0)	211(100.0)	471,518 (100.0)	470,438(100.0)	1,080(100.0)

- (注) 1.流動性預金=当座預金+普通預金+貯蓄預金+通知預金 2.定期性預金=定期預金+定期積金

 - 国定自由金利定期預金:預入時に満期日迄の利率が確定する自由金利定期預金 変動自由金利定期預金:預入期間中の市場金利の変化に応じて金利が変動する自由金利定期預金 3.国際業務部門の国内店外貨建取引の平均残高は、月次カレント方式により算出しております。

 - 4.() 内数値は構成比であります。

定期預金の残存期間別残高

(単位:百万円)

													· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	,
平成22年9月			22年9月:	30日			平成23年9月30日							
	3ヵ月以下	3ヵ月超6ヵ月以下	6ヵ月超 1年以下	1 年 超 2年以下	2 年 超 3年以下	3 年 超	合 計	3ヵ月以下	3ヵ月超6ヵ月以下	6ヵ月超 1年以下	1 年 超 2年以下	2 年 超 3年以下	3 年 超	合 計
定期預金	72,058	66,179	80,562	21,646	26,262	38,015	304,724	57,907	62,123	82,692	27,603	39,756	50,040	321,124
うち固定自由金利定期預金	72,058	66,179	80,562	21,646	26,262	38,015	304,724	57,907	62,123	82,692	27,603	39,756	50,040	0
うち変動自由金利定期預金	0	-	0	0	-	-	0	0	-	-	-	-	-	321,124

⁽注)本表の預金残高には、積立定期預金を含んでおりません。

投資有価証券

保有有価証券残高

(単位:百万円、%)

[期末残高]			平成22年9月30日		平成23年9月30日		
	1木%同]	期末残高			期末残高		
			国内業務部門	国際業務部門		国内業務部門	国際業務部門
	国債	24,906 (32.7)	24,906	-	30,354 (37.6)	30,354	-
投	地方債	13,877 (18.2)	13,877	-	10,903 (13.5)	10,903	-
資有	社債	24,958 (32.8)	24,958	-	23,572 (29.2)	23,572	-
価証	株式	3,890 (5.1)	3,890	-	3,770 (4.6)	3,770	-
券	その他の証券	8,382 (11.0)	3,462	4,920	12,126 (15.0)	3,151	8,974
	うち外国債券	4,920 (6.4)	-	4,920	8,974 (11.1)	-	8,974
	合 計	76,015 (100.0)	71,095	4,920	80,727 (100.0)	71,752	8,974

(単位:百万円、%)

[平均残高]			平成22年9月期 自平成22年4月1日 至平成22年9月30日		平成23年9月期 〔自平成23年4月1日〕 至平成23年9月30日〕		
L -	~기/시미]	平均残高			平均残高		
			国内業務部門	国際業務部門		国内業務部門	国際業務部門
	国債	26,638 (31.7)	26,638	-	30,986 (37.5)	30,986	-
投	地方債	13,180 (15.7)	13,180	-	15,058 (18.2)	15,058	-
資	短期社債	1,846 (2.2)	1,846	-	1,513 (1.8)	1,513	-
有価	社債	28,052 (33.4)	28,052	-	19,715 (23.8)	19,715	-
証	株式	4,719 (5.6)	4,719	-	4,099 (4.9)	4,099	-
券	その他の証券	9,348 (11.1)	4,281	5,066	11,266 (13.6)	4,030	7,235
	うち外国債券	5,066 (6.0)	-	5,066	7,235 (8.7)	-	7,235
	合 計	83,786 (100.0)	78,719	5,066	82,639 (100.0)	75,403	7,235

⁽注)1.()内数値は構成比であります。 2.国際業務部門の国内店外貨建取引の平均残高は、月次カレント方式により算出しております。

(単位:百万円)

г <i>Т</i> -	大田	明则成合;				平成22年	9月30日			
[残存期間別残高]			1 年以下	1 年 超 3 年以下	3 年 超 5 年以下	5 年 超 7 年 以下	7 年 超 10年以下	10 年 超	期間の定め のないもの	合 計
	国債		4,406	509	7,067	4,482	6,404	2,036	-	24,906
投資	地方值	責	-	-	11,867	2,009	-	-	-	13,877
有	社債		4,951	6,383	11,742	1,606	-	273	-	24,958
価	株式		-	-	-	-	-	-	3,890	3,890
証券	その作	他の証券	1,997	3,044	750	1,075	350	-	1,164	8,382
,,	-	うち外国債券	1,910	1,635	711	663	-	-	-	4,920
		合 計	11,355	9,938	31,428	9,173	6,755	2,309	5,054	76,015
						平成23年	9月30日			
			1 年以下	1 年 超 3 年以下	3 年 超 5 年以下	5 年 超 7 年以下	7 年 超 10年以下	10 年 超	期間の定め のないもの	合 計
	国債		504	2,014	24,684	2,103	1,047	-	-	30,354
投資	地方值	責	-	-	10,903	-	-	-	-	10,903
有	社債		1,981	4,378	15,773	589	849	-	-	23,572
価	株式		-	-	-	-	-	-	3,770	3,770
証券	その作	他の証券	1,648	3,938	4,672	820	-	-	1,046	12,126
	-	うち外国債券	1,294	2,972	4,263	444	-	-	-	8,974
		合 計	4,134	10,332	56,032	3,513	1,896	-	4,817	80,727

商品有価証券

商品有価証券売買高・平均残高

(単位:百万円)

	平成22年9月期 〔自平成22年4月1日 至平成22年9月30日			年9月期 年4月1日 年9月30日
	売買高	平均残高	売買高	平均残高
商品国債	412	1	664	7
商品地方債・商品政府保証債	-	-	-	-
合 計	412	1	664	7

有価証券の時価情報

中間貸借対照表の「有価証券」について記載しております。

(平成23年9月期)

満期保有目的の債券

該当事項はありません。

子会社・子法人等株式及び関連法人等株式

該当事項はありません。

(注)時価を把握することが極めて困難と認められる子会社・子法人等株式及び関連法人等株式

	中間貸借対照表計上額(百万円)
子会社・子法人等株式	22
合 計	22

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「子会社・子法人等株式及び関連法人等株式」には含めておりません。

その他有価証券

(単位:百万円)

	種類	中間貸借対照表計上額	取得原価	差額
	株 式	1,091	1,001	89
	債 券	54,392	54,030	362
	国債	27,357	27,235	122
中間貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	地方債	10,903	10,837	65
	社 債	16,131	15,957	173
	その他	2,317	2,312	4
	小 計	57,801	57,344	456
	株 式	1,792	2,214	421
	債 券	10,437	10,560	122
	国 債	2,996	3,000	3
中間貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	地方債	-	-	-
	社 債	7,440	7,559	119
	その他	9,720	10,732	1,012
	小 計	21,950	23,506	1,556
合	計	79,751	80,851	1,099

(注)時価を把握することが極めて困難と認められるその他有価証券

	中間貸借対照表計上額(百万円)
株式	864
その他	88
合 計	952

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

減損処理を実施した有価証券

その他有価証券のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって中間貸借対照表計上額とするとともに、評価差額を当中間会計期間の損失として処理(以下「減損処理」という。)しております。

当中間会計期間における減損処理はありません。

なお、時価があるものの時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、当中間会計期間末の時価が取得原価に比べて50%以上下落した場合は著しく下落したと判断し、30%以上50%未満下落している場合は発行会社の財務内容及び過去の一定期間における時価の推移等を勘案して判断しております。

(平成22年9月期)

満期保有目的の債券

該当ありません。

子会社・子法人等株式及び関連法人等株式

該当事項はありません。

(注)時価を把握することが極めて困難と認められる子会社・子法人等株式及び関連法人等株式

	中間貸借対照表計上額(百万円)
子会社・子法人等株式	22
合 計	22

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「子会社・子法人等株式及び関連法人等株式」には含めておりません。

その他有価証券

(単位:百万円)

	種類	中間貸借対照表計上額	取得原価	差額
	株 式	588	537	51
	債 券	54,924	54,341	582
	国 債	19,528	19,386	141
中間貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	地方債	13,877	13,771	105
	社 債	21,519	21,183	335
	その他	3,959	3,913	45
	小 計	59,472	58,793	679
	株 式	2,457	3,270	813
	債 券	8,817	9,024	207
	国 債	5,378	5,470	92
中間貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	地方債	-	-	-
	社	3,439	3,554	114
	その他	4,240	5,073	833
	小計	15,514	17,369	1,854
合	計	74,987	76,163	1,175

(注)時価を把握することが極めて困難と認められるその他有価証券

	中間貸借対照表計上額(百万円)
株式	821
その他	183
合 計	1,005

______ これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

減損処理を実施した有価証券

その他有価証券で時価のあるもののうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって中間貸借対照表計上額とするとともに、評価差額を当中間会計期間の損失として処理(以下「減損処理」という。)しております。

当中間会計期間における減損処理額は、56百万円(うち、株式56百万円)であります。

なお、時価のあるものの時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、当中間会計期間末の時価が取得原価に比べて50%以上下落した場合は著しく下落したと判断し、30%以上50%未満下落している場合は発行会社の財務内容及び過去の一定期間における時価の推移等を勘案して判断しております。

損益関係

粗 利 益

(単位:百万円、%)

		平成22年9月期 自平成22年4月1日 至平成22年9月30日			平成23年9月期 〔自平成23年4月1日〕 至平成23年9月30日〕			
		国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合	計
				7				7
	資金運用収益	4,836	35	4,864	4,717	34		4,744
				7				7
	資金調達費用	562	7	562	469	7		470
資	金運用収支	4,274	28	4,302	4,247	26		4,274
	役務取引等収益	678	4	683	748	4		752
	役務取引等費用	480	1	482	467	1		469
役	務取引等収支	198	2	201	280	2		282
	その他業務収益	481	3	484	384	5		390
	その他業務費用	131	-	131	158	-		158
そ	の他業務収支	350	3	353	226	5		231
業	務粗利益	4,822	34	4,856	4,754	33		4,788
業	務粗利益率	2.08	1.26	2.10	1.94	0.80		1.95

- (注) 1 . 国内業務部門は国内店の円建取引、国際業務部門は国内店の外貨建取引であります。 2 . 資金運用収益及び資金調達費用の合計欄の上段の計数は、国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の利息であります。
 - 3 . 業務粗利益率 = 業務粗利益×365/183 資金運用勘定平均残高 ×100
 - 4 . 特定取引勘定を設置しておりませんので、特定取引収支はございません。

資金運用・調達勘定平均残高、利息、利回り

(単位:百万円、%)

[国内業務部門]		平成22年9月期 自平成22年4月1日 至平成22年9月30日			平成23年9月期 自平成23年4月1日 至平成23年9月30日	
	平 均 残 高	利 息	利 回 り	平 均 残 高	利 息	利 回 り
	(5,192)	(7)		(7,116)	(7)	
資金運用勘定	460,478	4,836	2.09	487,280	4,717	1.93
うち貸出金	350,383	4,388	2.49	369,759	4,386	2.36
うち商品有価証券	1	0	0.23	7	0	1.06
うち有価証券	78,719	424	1.07	75,403	305	0.80
うちコールローン	24,126	13	0.11	32,998	18	0.11
うち預け金	2,054	2	0.28	1,994	1	0.11
資金調達勘定	452,375	562	0.24	480,292	469	0.19
うち預金	445,152	462	0.20	470,438	334	0.14
うち借用金	352	0	0.25	3,132	1	0.11
うち社債	6,842	99	2.90	6,700	133	3.96

- (注) 1 . 資金運用勘定は無利息預け金の平均残高 (平成22年9月期 1,238百万円、平成23年9月期 2,004百万円)を控除しております。
- 2.()内は、国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の平均残高及び利息(内書き)であります。

(単位:百万円、%)

						(千四、口刀	13、70)
[国際業務部門]		平成22年9月期 自平成22年4月1日 至平成22年9月30日			平成23年9月期 自平成23年4月1日 至平成23年9月30日		
	平 均 残 高	利 息	利回り	平 均 残 高	利 息	利 回	IJ
資金運用勘定	5,404	35	1.32	8,438	34		0.80
うち有価証券	5,066	35	1.41	7,235	33		0.92
資金調達勘定	(5,192)	(7)		(7,116)	(7)		
貝並詗達樹足	5,407	7	0.27	8,199	7		0.18
うち預金	211	0	0.08	1,080	0		0.09

- (注) 1. 資金運用勘定は無利息預け金の平均残高(平成22年9月期 0百万円、平成23年9月期 2百万円)を控除しております。 2.()内は、国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の平均残高及び利息(内書き)であります。

受取利息、支払利息の分析

(単位:百万円)

[国内業務部門]	平成22年9月期 〔自平成22年4月1日 至平成22年9月30日〕			平成23年9月期 自平成23年4月1日 至平成23年9月30日		
	残高による増減	利率による増減	純増減	残高による増減	利率による増減	純増減
受取利息	54	194	139	259	378	118
うち貸出金	200	178	21	229	232	2
うち商品有価証券	0	0	0	0	0	0
うち有価証券	47	71	118	15	103	119
うちコールローン	2	1	1	4	0	4
うち預け金	17	17	34	0	1	1
支払利息	3	190	186	27	119	92
うち預金	3	190	187	17	145	127
うち借用金	0	0	0	1	0	1

⁽注)残高及び利率の増減要因が重なる部分については、両者の増減割合に応じて按分しております。

(単位:百万円)

[国際業務部門]	平成22年9月期 [自平成22年4月 1 日] 至平成22年9月30日			平成23年9月期 〔自平成23年4月 1 日 至平成23年9月30日		
	残高による増減	利率による増減	純増減	残高による増減	利率による増減	純増減
受取利息	17	3	21	12	14	1
うち有価証券	20	1	21	10	12	2
支払利息	4	4	8	2	2	0
うち預金	0	0	0	0	0	0

⁽注)残高及び利率の増減要因が重なる部分については、両者の増減割合に応じて按分しております。

その他業務収支の内訳

(単位:百万円)

	平成22年9月期 〔自平成22年4月 1 日 至平成22年9月30日			平成23年9月期 〔自平成23年4月1日〕 至平成23年9月30日〕			
	国内業務部門 国際業務部門 合 計			国内業務部門	国際業務部門	合	計
その他業務収支	350	3	353	226	5		231
外国為替売買損益	外国為替売買損益 - 3		3	-	5		5
商品有価証券売買損益	0	-	0	0	-		0
国債等債券売却損益	315	-	315	203	-		203
債券費・社債費			8	-		8	
その他	34	-	34	31	-		31

役務取引の状況

	平成22年9月期 〔自平成22年4月 1 日 至平成22年9月30日			平成23年9月期 〔自平成23年4月1日〕 至平成23年9月30日〕			
	国内業務部門	国内業務部門 国際業務部門 合 計		国内業務部門	国際業務部門	合	計
役務取引等収益	678	4	683	748	4		752
うち預金・貸出業務	221	-	221	196	-		196
うち為替業務	206	4	211	202	4		207
うち証券関連業務	17	-	17	41	-		41
うち代理業務	47	-	47	43	-		43
うち保護預り・貸金庫業務	6	-	6	6	-		6
うち保証業務	8	-	8	11	-		11
うち保険窓販業務	123	-	123	177	-		177
うち投信窓販業務	48	-	48	68	-		68
役務取引等費用	480	1	482	467	1		469
うち為替業務	37	1	39	37	1		39
うち保証業務	412	-	412	393	-		393
その他	31	-	31	36	-		36

諸比率・諸効率

総資金利鞘

(単位:%)

							(1 = 1)
	平成22年9月期 自平成22年4月1日 至平成22年9月30日			平成23年9月期 自平成23年4月1日 至平成23年9月30日			
	国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合	計
資金運用利回り	2.09	1.32	2.10	1.93	0.80		1.93
資金調達原価	1.58	1.00	1.59	1.38	0.67		1.39
総資金利鞘	0.51	0.32	0.51	0.54	0.12		0.54

利 益 率

(単位:%)

		() — : - /
	平成22年9月期 〔自平成22年4月1日〕 至平成22年9月30日	平成23年9月期 〔自平成23年4月1日〕 至平成23年9月30日〕
総資産経常利益率	0.32	0.42
資本経常利益率	9.48	12.45
総資産当期純利益率	0.29	0.50
資本当期純利益率	8.67	14.91
総資産業務純益率	0.95	0.84

- (注) 1.総資産経常または中間純利益率 = 経常または中間純利益×365/183 (期首総資産(除く支払承諾見返)) + 2 ×100
 - 2 . 資本経常または中間純利益= $\frac{$ 経常または中間純利益 \times $365/183}{ (期首純資産の部 + 中間期末純資産の部) <math>\div 2$ \times 100

預貸率

(単位:%)

	平成225 「自平成225 至平成225		平成23年9月期 〔自平成23年4月1日 至平成23年9月30日		
	期末	期 中 平 均	期 末 期中平均		
国内業務部門	79.33	78.71	78.84 78.59		
国際業務部門	0.00	0.00	0.00	0.00	
合 計	79.23 78.67		78.66	78.41	

預 証 率

(単位:%)

	平成22 〔自平成22 至平成22		平成23年9月期 〔自平成23年4月1日〕 至平成23年9月30日〕		
	期末	期 中 平 均	期末	期 中 平 均	
国内業務部門	15.74	17.68	15.12	16.02	
国際業務部門	884.69	2,396.22	831.65	669.63	
合 計	16.81	18.81	16.97	17.52	

単体自己資本比率(国内基準)

(単位:百万円)

	項目	平成22年9月30日	平成23年9月30日
	資本金	12,495	12,495
	うち非累積的永久優先株	9,000	9,000
	新株式申込証拠金	-	-
	資本準備金	1,350	1,350
	その他資本剰余金	-	-
	利益準備金	92	181
	その他利益剰余金	1,859	2,900
	その他	-	-
	自己株式()	70	71
	自己株式申込証拠金	-	-
基本的項目	社外流出予定額()	-	-
(Tier1)	その他有価証券の評価差損()	-	-
	新株予約権	-	-
	営業権相当額()	-	-
	のれん相当額()	-	-
	企業結合により計上される無形固定資産相当額()	-	-
	証券化取引に伴い増加した自己資本相当額()	1,000	770
	操延税金資産の控除前の[基本的項目]計(上記各項目の合計額)	-	-
	繰延税金資産の控除金額()	-	-
	計 (A)	14,727	16,086
	うちステップ・アップ金利条項付の優先出資証券(注1)	-	-
	うち海外特別目的会社の発行する優先出資証券	-	-
	土地の再評価額と再評価の直前の帳簿価額の差額の45%相当額	1,299	1,283
	一般貸倒引当金	3,193	2,829
	負債性資本調達手段等	6,700	6,700
補 完 的 項 目 (Tier 2)	うち永久劣後債務 (注2)	-	-
(Herz)	うち期限付劣後債務及び期限付優先株 (注3)	6,700	6,700
	計	11,193	10,812
	うち自己資本への算入額 (B)	9,933	9,937
控 除 項 目	控除項目 (注4)(C)	-	-
自己資本額	(A) + (B) - (C) (D)	24,660	26,024
	資産 (オン・バランス) 項目	289,061	292,888
	オフ・バランス取引等項目	1,218	1,035
	信用リスク・アセットの額 (E)	290,279	293,923
リスク・アセット等	オペレーショナル・リスク相当額に係る額((G)/8%) (F)	19,047	18,719
	(参考)オペレーショナル・リスク相当額 (G)	1,523	1,497
	計(E)+(F) (H)	309,326	312,643
単体自己資本比率(国	内基準	7.97%	8.32%
	₫ = A / H × 100 (%)	4.76%	5.14%
(, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,			

(注)1.告示第40条第2項に掲げるもの、すなわちステップ・アップ金利等の特約を付すなど償還を行う蓋然性を有する株式等(海外特別目的会社の発行する優先出資証券を含む。)でありま す。 2 . 告示第41条第1項第3号に掲げる負債性資本調達手段で次に掲げる性質のすべてを有するものであります。

- (1)無担保で、かつ、他の債務に劣後する払込済のものであること (2)一定の場合を除き、償還されないものであること (3)業務を継続しながら損失の補てんに充当されるものであること
- (4)利払い義務の延期が認められるものであること
- 3 . 告示第41条第1項第4号及び第5号に掲げるものであります。ただし、期限付劣後債務は契約時における償還期間が5年を超えるものに限られております。 4 . 告示第43条第1項第1号から第5号に掲げるものであり、他の金融機関の資本調達手段の意図的な保有相当額が含まれております。

バーゼル 第3の柱に基づく開示

バーゼル 第3の柱(市場規律)に基づき、自己資本の充実の状況等を開示します。

定量的な開示事項

非連結子会社等で控除項目の対象となる会社のうち、規制上の所要自己資本を下回った会社の名称、所要自己資本を下回った額の総額

・対象となる会社はありません。

自己資本の構成に関する事項、自己資本比率、Tier1比率

・P.26「連結自己資本比率」、P.45「単体自己資本比率」に記載しています。

自己資本の充実度に関する事項

1.信用リスクに対する所要自己資本の額

【連 結】

(単位:百万円)

	平成22	年9月期	平成23	年9月期
項目	リスク・アセット	所要自己資本額	リスク・アセット	所要自己資本額
外国の中央政府及び中央銀行向け	16	0	13	0
外国の中央政府等以外の公共部門向け	49	1	58	2
国際開発銀行向け	103	4	164	6
我が国の政府関係機関向け	176	7	121	4
地方三公社向け	347	13	237	9
金融機関及び第一種金融商品取引業者向け	3,055	122	5,150	206
法人等向け	117,131	4,685	114,176	4,567
中小企業等向け及び個人向け	70,082	2,803	67,082	2,683
抵当権付住宅ローン	1,995	79	1,957	78
不動産取得等事業向け	48,038	1,921	63,265	2,530
三月以上延滞等	2,623	104	2,394	95
取立未済手形	17	0	16	0
信用保証協会等による保証付	3,339	133	3,258	130
出資等	10,246	409	6,322	252
上記以外	11,418	456	11,246	449
証券化 (オリジネーターの場合)	20,508	820	17,626	705
資産 (オン・バランス)計	289,150	11,566	293,091	11,723
短期の貿易関連偶発債務	5	0	0	0
特定の取引に係る偶発債務	3	0	-	-
信用供与に直接的に代替する偶発債務	1,204	48	1,029	41
先物購入、先渡預金、部分払込株式又は部分払込債券	0	0	0	0
派生商品取引	3	0	5	0
オフ・バランス取引等計	1,218	48	1,035	41
合 計	290,368	11,614	294,127	11,765

【単 体】 (単位:百万円)

項目	平成22	年9月期	平成23	年9月期
	リスク・アセット	所要自己資本額	リスク・アセット	所要自己資本額
外国の中央政府及び中央銀行向け	16	0	13	0
外国の中央政府等以外の公共部門向け	49	1	58	2
国際開発銀行向け	103	4	164	6
我が国の政府関係機関向け	176	7	121	4
地方三公社向け	347	13	237	9
金融機関及び第一種金融商品取引業者向け	3,055	122	5,150	206
法人等向け	118,625	4,745	114,541	4,581
中小企業等向け及び個人向け	69,036	2,761	66,985	2,679
抵当権付住宅ローン	1,995	79	1,957	78
不動産取得等事業向け	48,038	1,921	63,265	2,530
三月以上延滞等	2,479	99	2,264	90
取立未済手形	17	0	16	0
信用保証協会等による保証付	3,339	133	3,258	130
出資等	9,906	396	5,982	239
上記以外	11,365	454	11,245	449
証券化(オリジネーターの場合)	20,508	820	17,626	705
資産 (オン・バランス) 計	289,061	11,562	292,888	11,715
短期の貿易関連偶発債務	5	0	0	0
特定の取引に係る偶発債務	3	0	-	-
信用供与に直接的に代替する偶発債務	1,204	48	1,029	41
先物購入、先渡預金、部分払込株式又は部分払込債券	0	0	0	0
派生商品取引	3	0	5	0
オフ・バランス取引等計	1,218	48	1,035	41
合 計	290,279	11,611	293,923	11,756

⁽注)所要自己資本額=リスク・アセット×4%

2. オペレーショナル・リスクに対する所要自己資本の額

(単位:百万円)

		平成22	年9月期			平成23	年9月期	
	【連	結】	【単	体】	【連	結】	【単	体】
所要自己資本額		778		761		764		748

3 . 総所要自己資本額

(単位:百万円)

		平成22	年9月期	平成23年9月期				
	【連	結】	【単体】	【連	結】	【単	体】	
総所要自己資本額		12,393	12,373		12,529		12,505	

信用リスク(証券化エクスポージャーを除く)に関する事項

1 . 信用リスクに関するエクスポージャーの種類別期末残高

【連 結】 (単位:百万円)

•	<i>→ → → → → → → → → →</i>										(単位:日万円)
			平成22	年9月期					平成23	年9月期	
		期末残高			3月以上延滞 エクスポー ジャーの			期末残高			3月以上延滞 エクスポー ジャーの
			うち貸出金等	うち有価証券	期末残高				うち貸出金等	うち有価証券	期末残高
	国内計	478,938	354,093	71,845	4,209		国内計	503,434	372,307	72,091	3,303
	国外計	4,528	-	4,519	-		国外計	8,974	-	8,974	-
圤	域 別 合 計	483,467	354,093	76,365	4,209	地	域 別 合 計	512,409	372,307	81,066	3,303
	製造業	20,267	17,907	2,360	141		製造業	21,967	20,224	1,743	127
	農業、林業	391	391	-	4		農業、林業	360	360	-	-
	漁業	209	209	-	10		漁業	211	211	-	11
	鉱業、採石業、砂利採取業	1,593	1,539	-	-		鉱業、採石業、砂利採取業	1,557	1,557	-	-
	建設業	26,935	26,615	319	1,020		建設業	26,095	25,178	916	984
	電気・ガス・熱供給・水道業	2,642	2,606	35	-		電気・ガス・熱供給・水道業	5,155	5,043	112	-
	情報通信業	5,209	4,749	459	-		情報通信業	5,971	4,805	1,165	-
	運輸業、郵便業	13,271	12,901	369	902		運輸業、郵便業	12,835	12,572	262	362
	卸売業・小売業	36,671	34,575	2,095	364		卸売業・小売業	35,412	33,866	1,546	239
	金融業・保険業	68,500	11,094	24,624	-		金融業・保険業	76,484	14,083	22,178	-
	不動産業、物品賃貸業	68,181	65,887	2,292	1,009		不動産業、物品賃貸業	75,986	72,061	3,922	769
	各種サービス業	60,884	60,113	758	260		各種サービス業	64,112	62,715	1,384	386
	地方公共団体	78,790	39,139	39,285	-		地方公共団体	88,396	43,489	44,681	-
	個人	76,693	76,308	-	494		個人	76,186	76,136	-	421
	その他	23,227	-	3,764	-		その他	21,675	-	3,151	-
業	種 別 合 計	483,467	354,093	76,365	4,209	業	種別合計	512,409	372,307	81,066	3,303
	1年以下	83,566	55,047	26,799	2,724		1年以下	69,342	59,248	8,715	1,742
	1年超3年以下	45,388	35,447	9,938	261		1年超3年以下	46,920	38,256	8,661	395
	3年超5年以下	71,719	40,797	30,920	160		3年超5年以下	97,079	42,377	54,702	162
	5年超7年以下	35,912	32,961	2,951	25		5年超7年以下	30,247	27,465	2,782	87
	7年超10年以下	45,351	45,000	350	600		7年超10年以下	57,144	56,096	1,047	370
	10年超	141,477	141,477	-	419		10年超	145,771	145,771	-	498
	期間の定めのないもの	60,051	3,361	5,404	17		期間の定めのないもの	65,903	3,091	5,157	46
死	存期間別合計	483,467	354,093	76,365	4,209	残	存期間別合計	512,409	372,307	81,066	3,303

【単 体】 (単位:百万円)

		平成22	—————— 年9月期					平成23	年9月期	(十座・口///1)
	期末残高	うち貸出金等	うち有価証券	3月以上延滞 エクスポー ジャー の 期末 残高			期末残高	うち貸出金等	うち有価証券	3月以上延滞 エクスポー ジャー の 期 末 残 高
国内計	478,449	354,394	71,495	4,033		国内計	503,220	372,467	71,752	3,182
国外計	4,528	334,334	4,519	4,033		国外計	8,974	372,407	8,974	5,102
地域別合計	482,978	354,394	76,015	4.033	+#1	」域別合計	512,175	372,467	80,727	3,182
製造業	20,267	17,907	2,360	141	-6	製造業	21,967	20,224	1,743	127
農業、林業	391	391	2,500	4		農業、林業	360	360	1,743	127
漁業	209	209		10		漁業	211	211		11
鉱業、採石業、砂利採取業		1,593	_	-		鉱業、採石業、砂利採取業		1,557	_	
建設業	26,935	26,615	319	1,020		建設業	26,095	25,178	916	984
電気・ガス・熱供給・水道業	,	2,606	35	- 1,020		電気・ガス・熱供給・水道業	,	5,043	112	-
情報通信業	5,209	4,749	459	_		情報通信業	5,971	4,805	1,165	_
運輸業、郵便業	13,271	12,901	369	902		運輸業、郵便業	12,835	12,572	262	362
卸売業・小売業	36,671	34,575	2,095	364		卸売業・小売業	35,412	33,866	1,546	239
金融業・保険業	70,015	12,587	24,646	-		金融業・保険業	76,870	14,448	22,200	-
不動産業、物品賃貸業	68,181	65,887	2,292	1,009		不動産業、物品賃貸業	75,986	72,061	3,922	769
各種サービス業	60,511	60,113	386	260		各種サービス業	63,750	62,715	1,022	386
地方公共団体	78,790	39,139	39,285	-		地方公共団体	88,396	43,489	44,681	-
個人	75,116	75,116	-	318		個人	75,931	75,931	_	300
その他	23,172	-	3,764	-		その他	21,672	-	3,151	-
業種別合計	482,978	354,394	76,015	4,033	業	種 別 合 計	512,175	372,467	80,727	3,182
1年以下	83,324	55,190	26,799	2,547		1年以下	69,309	59,265	8,715	1,621
1年超3年以下	45,388	35,447	9,938	261		1年超3年以下	46,920	38,256	8,661	395
3年超5年以下	71,719	40,797	30,920	160		3年超5年以下	97,079	42,377	54,702	162
5年超7年以下	35,912	32,961	2,951	25		5年超7年以下	30,247	27,465	2,782	87
7年超10年以下	45,351	45,000	350	600		7年超10年以下	57,144	56,096	1,047	370
10年超	141,635	141,635	-	419		10年超	145,914	145,914	-	498
期間の定めのないもの	59,646	3,361	5,054	17		期間の定めのないもの	65,559	3,091	4,817	46
残存期間別合計	482,978	354,394	76,015	4,033	残	存期間別合計	512,175	372,467	80,727	3,182

⁽注)「3月以上延滞エクスポージャー」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3か月以上延滞しているエクスポージャーをいいます。

2.一般貸倒引当金、個別貸倒引当金及び特定海外債権引当勘定の期末残高及び期中の増減額

【連 結】 (単位:百万円)

		平成22年9月期		平成23年9月期					
	期首残高	当期増減額	期末残高	期首残高	当期増減額	期末残高			
一般貸倒引当金	3,722	466	3,255	3,086	212	2,873			
個別貸倒引当金	4,193	546	4,740	4,434	26	4,460			
特定海外債権引当勘定	-	-	-	-	-	-			
合 計	7,916	80	7,996	7,520	186	7,334			

【単 体】 (単位:百万円)

		平成22年9月期		平成23年9月期				
	期首残高	当期増減額	期末残高	期首残高	当期増減額	期末残高		
一般貸倒引当金	3,656	462	3,193	3,020	190	2,829		
個別貸倒引当金	4,106	552	4,659	4,383	44	4,427		
特定海外債権引当勘定	-	-	-	-	-	-		
合 計	7,762	89	7,852	7,403	146	7,256		

3. 個別貸倒引当金の種類別期末残高及び期中の増減額

【連 結】 (単位:百万円)

			平成22年9月期					平成23年9月期	
		期首残高	当期増減額	期末残高			期首残高	当期増減額	期末残高
	国内計	4,193	546	4,740		国内計	4,434	26	4,460
	国外計	-	-	-		国外計	-	-	-
地	域 別 合 計	4,193	546	4,740	地	域 別 合 計	4,434	26	4,460
	製造業			411		製造業			404
	農業、林業			-		農業、林業			-
	漁業			2		漁業			2
	鉱業、採石業、砂利採取業			-		鉱業、採石業、砂利採取業			-
	建設業			1,416		建設業			1,272
	電気・ガス・熱供給・水道業			-		電気・ガス・熱供給・水道業			-
	情報通信業			3		情報通信業			-
	運輸業、郵便業	/		742		運輸業、郵便業	/		517
	卸売業・小売業			516		卸売業・小売業			540
	金融業・保険業			-		金融業・保険業			-
	不動産業、物品賃貸業			486		不動産業、物品賃貸業			654
	各種サービス業			942		各種サービス業	/		784
	地方公共団体			-		地方公共団体			19
	個人			218		個人			263
	その他	/		-		その他	/		-
業	種別合計	4,193	546	4,740	業	種 別 合 計	4,434	26	4,460

【単 体】 (単位:百万円)

			平成22年9月期					平成23年9月期	
		期首残高	当期増減額	期末残高			期首残高	当期増減額	期末残高
	国内計	4,106	552	4,659		国内計	4,383	44	4,427
	国外計	-	-	-		国外計	-	-	-
地	域 別 合 計	4,106	552	4,659	地	域 別 合 計	4,383	4 4	4,427
	製造業			411		製造業			404
	農業、林業			-		農業、林業			-
	漁業			2		漁業			2
	鉱業、採石業、砂利採取業			-		鉱業、採石業、砂利採取業			-
	建設業			1,416		建設業			1,272
	電気・ガス・熱供給・水道業			-		電気・ガス・熱供給・水道業			-
	情報通信業			3		情報通信業			-
	運輸業、郵便業	/		742		運輸業、郵便業	/	/	517
	卸売業・小売業	/		516		卸売業・小売業			540
	金融業・保険業			-		金融業・保険業			-
	不動産業、物品賃貸業			486		不動産業、物品賃貸業			654
	各種サービス業	/		942		各種サービス業			784
	地方公共団体			-		地方公共団体			19
	個人			137		個人			230
	その他			-		その他			-
業	種 別 合 計	4,106	552	4,659	業	種 別 合 計	4,383	44	4,427

4.業種別の貸出金償却の額

(単位:百万円)

			平成22	年9月期					平成23	年9月期	
		【連	結】	【単	体】			【連	結】	【単	体】
	国内計		9,401		9,385		国内計		10,364		10,348
	国外計		-		-		国外計		-		-
坩	2 域 別 合 計		9,401		9,385	坩	也域 別 合 計		10,364		10,348
	製造業		449		449		製造業		400		400
	農業、林業		142		142		農業、林業		128		128
	漁業		18		18		漁業		8		8
	鉱業、採石業、砂利採取業		-		-		鉱業、採石業、砂利採取業		-		-
	建設業		1,812		1,812		建設業		2,296		2,296
	電気・ガス・熱供給・水道業		-		-		電気・ガス・熱供給・水道業		-		-
	情報通信業		-		-		情報通信業		3		3
	運輸業、郵便業		3,161		3,161		運輸業、郵便業		3,619		3,619
	卸売業・小売業		763		763		卸売業・小売業		541		541
	金融業、保険業		-		-		金融業、保険業		-		-
	不動産業、物品賃貸業		2,252		2,252		不動産業、物品賃貸業		2,399		2,399
	各種サービス業		540		540		各種サービス業		615		615
	地方公共団体		-		-		地方公共団体		-		-
	個人		261		244		個人		350		334
	その他		-		-		その他		-		-
業	種 別 合 計		9,401		9,385	業	美種 別 合 計		10,364		10,348

5. リスク・ウェイトの区分ごとの信用リスク削減手法の効果を勘案した後の残高及び資本控除した額

(単位:百万円)

								(十位・日/川コ)
		平成22	年9月期			平成23	年9月期	
	【連	結】	【単	体】	【連結】		【単	体】
	格付あり	格付なし	格付あり	格付なし	格付あり	格付なし	格付あり	格付なし
0%	1,558	115,462	1,558	115,462	1,555	126,295	1,555	126,294
10%	1,761	33,395	1,761	33,395	1,216	32,592	1,216	32,592
20%	13,257	5,716	13,257	5,716	14,684	11,160	14,684	11,160
35%	-	5,699	-	5,699	-	5,593	-	5,593
50%	8,072	1,242	8,072	1,242	9,207	820	9,207	820
75%	-	93,335	-	91,941	3	89,365	3	89,236
100%	5,579	177,563	5,579	178,646	6,259	184,268	6,259	184,279
150%	0	1,050	0	964	0	879	0	799
350%	-	-	-	-	-	-	-	-
自己資本控除	-	-	-	-	-	-	-	-
合 計	30,230	433,466	30,230	433,069	32,927	450,975	32,927	450,777

⁽注) 1.「格付あり」とは、リスク・ウェイト算定にあたり、格付を適用しているエクスポージャーであり、「格付なし」とは、格付を適用していないエクスポージャー。なお、格付は適格格付機関が付与しているものに限ります。2.「格付あり」エクスポージャーには、原債務者の格付を適用しているエクスポージャーに加え、ソブリン格付に準拠したリスク・ウェイトを適用しているエクスポージャーが含まれます。

信用リスク削減手法に関する事項

		平成22	年9月期		平成23年9月期			
		結】	【単	体】	【連	結】	【単	体】
適格金融資産担保が適用されたエクスポージャーの額		2,558		2,558		2,625		2,625
保証又はクレジット・デリバティブが適用されたエクスポージャーの額		-		-		-		-

派生商品取引の取引相手のリスクに関する事項

- 1.派生商品取引の与信相当額の算出に用いる方式
 - ・カレント・エクスポージャー方式にて算出しています。
 - (注)カレント・エクスポージャー方式とは、デリバティブ取引の信用リスク計測手段の一つで、取引を時価評価することによって再構築コストを算出し、これに契約期間中に生じるであろう同コストの増加見込み額を付加して算出する方法をいいます。

2. 派生商品取引のグロス再構築コストの額及び与信相当額

(単位:百万円)

				(
	平成22	年9月期	平成23年9月期		
	【連 結】	【単 体】	【連 結】	【単 体】	
グロス再構築コストの額	10	10	18	18	
与信相当額(担保による信用リスク削減効果勘案前)	10	10	18	18	
派生商品取引	10	10	18	18	
外国為替関連取引	10	10	18	18	
金利関連取引	-	-	-	-	
株式関連取引	-	-	-	-	
その他取引	-	-	-	-	
クレジット・デリバティブ	-	-	-	-	
 与信相当額(担保による信用リスク削減効果勘案後)	10	10	18	18	

- (注)1.原契約期間が14日以内の外為関連取引の与信相当額は除きます。
 - 2 . 与信相当額(担保による信用リスク削減効果勘案前)は、再構築コスト及びグロスのアドオン額(想定元本額に金融庁告示第19号第79条に定める掛け目を乗じた額)の合計額をいいます。
- 3.信用リスク削減手法に用いた担保の種類別の額
 - ・該当ありません。

証券化エクスポージャーに関する事項

- 1. 当行がオリジネーターである証券化エクスポージャーに関する事項
- (1)原資産の合計額、資産譲渡型証券化取引に係る原資産額、合成型証券化取引に係る原資産額、これらの主な原資産の種類別の内訳

(単位:百万円)

	原資産の種類	平成22	年9月期	平成23年9月期			
原真性の性類		【連結】	【単体】	【連結】	【単体】		
資	産譲渡型証券化取引	22,903	22,903	19,563	19,563		
	住宅ローン債権	22,903	22,903	19,563	19,563		
	事業者向け貸出	-	-	-	-		
合	成型証券化取引	-	-	-	-		
	合 計	22,903	22,903	19,563	19,563		

- (2)証券化エクスポージャーのうち、3月以上延滞エクスポージャーの額
 - ・該当ありません。
- (3)保有する証券化エクスポージャーの額及び主な原資産の種類別の内訳

(単位:百万円)

原資産の種類	平成22	年9月期	平成23年9月期			
原貝性の種類	【連結】	【単体】	【連結】	【単体】		
住宅ローン債権	9,372	9,372	9,142	9,142		
事業者向け貸出	-	-	-	-		
合 計	9,372	9,372	9,142	9,142		

(4)証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額及び主な原資産の種類別の内訳

原資産の種類	平成22	年9月期	平成23年9月期			
原貝性の性類	【連結】	【単体】	【連結】	【単体】		
住宅ローン債権	1,000	1,000	770	770		
事業者向け貸出	-	-	-	-		
合 計	1,000	1,000	770	770		

- (5)控除項目として自己資本から控除した証券化エクスポージャーの額
 - ・該当ありません。
- (6)早期償還条項付の証券化エクスポージャーに関する事項
 - ・該当ありません。
- (7) 当期に証券化を行ったエクスポージャーの概略
 - ・該当ありません。
- (8)証券化取引に伴い当期中に認識した売却損益の額
 - ・該当ありません。
- (9)告示附則第15条の適用により信用リスク・アセットを算出している証券化エクスポージャーの額

【連 結】 (単位:百万円)

		平成22年9月期		平成23年9月期		
リスク・ウェイト区分	原 資 産 リスク・アセット 所要自己資本額		原資産	リスク・アセット	所要自己資本額	
50%	4,789	4,789 2,394		3,874	1,937	77
100%	18,114 18,11		724	15,689	15,689	627
合 計	22,903	20,508	820	19,563	17,626	705

【単 体】 (単位:百万円)

	平成22年9月期			平成23年9月期			
リスク・ウェイト区分	原 資 産 リスク・アセット 所要自己資本額		原資産	リスク・アセット	所要自己資本額		
50%	4,789	2,394	95	3,874	1,937	77	
100%	18,114	18,114	724	15,689	15,689	627	
合 計	22,903	20,508	820	19,563	17,626	705	

- 2. 当行が投資家である証券化エクスポージャーに関する事項
- (1)保有する証券化エクスポージャーの額、原資産の種類別の内訳
 - ・該当ありません。
- (2)保有する証券化エクスポージャーのリスク・ウェイト毎の残高、所要自己資本の額
 - ・該当ありません。
- (3)控除項目として自己資本から控除した証券化エクスポージャーの額
 - ・該当ありません。
- (4)告示附則第15条の適用により信用リスク・アセットを算出している証券化エクスポージャーの額
 - ・該当ありません。

銀行勘定における出資等又は株式等エクスポージャーに関する事項

1.貸借対照表計上額、時価及び次に掲げる事項に係る貸借対照表計上額

【連 結】 (単位:百万円)

	平成22年9月期 貸借対照表計上額 時 価			平成23年9月期		
				貸借対照表計上額	時	価
上場している出資等	3,045		3,045	2,884		2,884
上記に該当しない出資等	6,757		6,757	3,117		3,117
合 計	9,803		9,803	6,001		6,001

【単 体】 (単位: 百万円)

	平成22年9月期			平成23年9月期		
	貸借対照表計上額	時	価	貸借対照表計上額	時	価
上場している出資等	3,045		3,045	2,884		2,884
上記に該当しない出資等	6,418		6,418	2,777		2,777
合 計	9,464		9,464	5,661		5,661

2 . 出資等または株式等エクスポージャーの売却及び償却に伴う損益の額

	平成22	年9月期	平成23年9月期		
	【連結】	【単 体】	【連 結】	【単体】	
売却損益額	3	4	6	0	
償 却 額	66	66	-	-	

3.貸借対照表で認識され、かつ、損益計算書で認識されない評価損益の額

(単位:百万円)

	平成22	年9月期	平成23年9月期			
	【連結】	【単 体】	【連結】	【単 体】		
貸借対照表で認識され、かつ、損益計算書で 認識されない評価損益の額	625	625	364	364		

- 4.貸借対照表及び損益計算書で認識されない評価損益の額
 - ・該当ありません。

銀行勘定における金利リスクに関して内部管理上使用した金利ショックに対する損益又は経済的価値の増減額

(単位:百万円)

	平成22年9月期	平成23年9月期
金利リスク量 (経済価値増減額)	2,819	906

前提条件

連結子会社は、グループ全体の運用・調達ポジションに占める比率が小さいことから、計測の対象外とし、単体の計数で管理。 金利シナリオは、観測期間5年、保有期間1年で観測される金利変動の1パーセンタイル値と99パーセンタイル値を使用。 当行の金利リスクは、コア預金内部モデルを用いて計測しております。

開示項目一覧

銀行法施行規則第19条の2(単体ベース)	八 自己資本の充実の状況45	
[銀行の概況及び組織に関する事項]	二 次に掲げるものに関する取得価格又は契約価格、時価及び評価損益	
イ 持株数の多い順に10以上の株主に関する事項27	有価証券39~41	
	金銭の信託33	
[銀行の主要な業務に関する事項]	第13条の3第1項第5号に掲げる取引33	
イ 直近の中間事業年度における事業の概況27	ホ 貸倒引当金の期末残高及び期中の増減額	
ロ 直近の3中間事業年度及び2事業年度における	へ 貸出金償却の額36	
主要な業務の状況を示す指標28	ト 銀行が中間貸借対照表、中間損益計算書及び中間株主資本等	
八 直近の2中間事業年度における業務の状況を示す指標	変動計算書について金融商品取引法第193条の2の規定に基	
《主要な業務の状況を示す指標》	づき公認会計士又は監査法人の監査証明を受けている場合に	
業務粗利益及び業務粗利益率42	はその旨28	
国内業務部門並びに国際業務部門の区分ごとの		
資金運用収支、役務取引等収支、特定取引収支及び	銀行法施行規則第19条の3(連結ベース)	
その他業務収支42	[銀行及びその子会社等の主要な業務に関する事項]	
国内業務部門並びに国際業務部門の区分ごとの		
資金運用勘定並びに資金調達勘定の平均残高、	ロ 直近の3中間連結会計年度及び2連結会計年度における	
利息、利回り及び資金利ざや42~44	主要な業務の状況を示す指標16	
国内業務部門並びに国際業務部門の区分ごとの		
受取利息及び支払利息の増減43	「銀行及びその子会社等の直近の2中間連結会計年度における	
総資産経常利益率及び資本経常利益率44	財産の状況に関する事項1	
総資産中間純利益率及び資本中間純利益率	イの中間連結貸借対照表・中間連結損益計算書・	
《預金に関する指標》	中間連結株主資本等変動計算書	
国内業務部門及び国際業務部門の区分ごとの	ロ 貸出金のうち破綻先債権、延滞債権、三ヵ月以上延滞債権、	
流動性預金、定期性預金、譲渡性預金その他の	貸出条件緩和債権の額及びその合計額	
預金の平均残高	八 自己資本の充実の状況	
固定金利定期預金、変動金利定期預金及びその他の	二 銀行及びその子法人等が二以上の異なる種類の事業を営んで	
区分ごとの定期預金の残存期間別の残高	いる場合の事業の種類ごとの区分に従い、当該区分に属する	
《貸出金等に関する指標》	経常収益の額、経常利益又は経常損失の額及び資産の額とし	
国内業務部門並びに国際業務部門の区分ごとの	て算出したもの24~25	
手形貸付、証書貸付、当座貸越及び割引手形の平均残高35	ホ 銀行が中間連結貸借対照表、中間連結損益計算書及び中間連	
固定金利及び変動金利の区分ごとの貸出金の	結株主資本等変動計算書について金融商品取引法第193条	
残存期間別の残高	の2の規定に基づき公認会計士又は監査法人の監査証明を受	
担保の種類別の貸出金残高及び支払承諾見返額36	けている場合にはその旨	
使途別の貸出金残高	,, (,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	
業種別の貸出金残高及び貸出金総額に占める割合9	金融機能の再生のための緊急措置に関する	
中小企業等に対する貸出金残高及び	法律施行規則第4条	
貸出金の総額に占める割合	74 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	
特定海外債権残高の5%以上を占める国別の残高35	バーゼル 第3の柱(市場規律)に基づく開示	
国内業務部門並びに国際業務部門の区分ごとの	アービル 第300代(中場税件)に基フ、用示 「定量的な開示事項)	
預貸率の期末値及び期中平均値	・非連結子会社等で控除項目の対象となる会社のうち、規制上	
《有価証券に関する指標》	の所要自己資本を下回った会社の名称、所要自己資本を下	
商品有価証券の種類別の平均残高	回った額の総額	
有価証券の種類別の残存期間別の残高	・自己資本の構成に関する事項、自己資本比率、Tier1比率46	
国内業務部門及び国際業務部門の区分ごとの	・自己資本の充実度に関する事項	
有価証券の種類別の平均残高	・信用リスク(証券化エクスポージャーを除く)に関する事項47	
国内業務部門並びに国際業務部門の区分ごとの	・信用リスク削減手法に関する事項	
国内未初の「並びに国际未初の「DOEカことの 預証率の期末値及び期中平均値	・派生商品取引の取引相手のリスクに関する事項50	
」只叫キジガルに次びカヤナシに44	・ 派主 向 品 な 引 の な 引 相 子 の り 入 り に 関 す る 事 項	
[銀行の直近の2中間事業年度における財産の状況に関する事項]	・	
越行の且近の2中间事業平度にありる射度の状況に関する事項 イ 中間貸借対照表・中間損益計算書・中間株主資本等	・銀行動だにのける山真寺又は休れ寺エクスホージャーに 関する事項	
1 中间貝信灯炽衣・中间損益計算者・中间休土貝本寺変動計算書28~31	メリタの争項	
安勤計算書	・銀行動走にありる並列リスクに関して銀行が内部管理工使用した金利ショックに対する損益又は経済的価値の増減額53	
ロ 貝山並のうち吸熱元良権、延が負権、三カガ以上延が負権、 貸出条件緩和債権の額及びその合計額	ひに並がフョップに対する頂面人は経済印制側間の追溯額53	
長山木川級作場性の領人の 6 の口引領		

当行の決算公告は、電子開示 (インターネット上のホームページアドレスに開示) を採用しております。ホームページアドレス http://www.howabank.co.jp/



豊和銀行 中間期ディスクロージャー誌 2011.9

二王座(臼杵市)

臼杵を代表する景観の一つ。武家屋敷や寺院が立ち並ぶ二王座。まるで 迷路のようなつづら折りの石畳や瓦屋根、白壁が残っています。かつて、 稲葉氏と縁のあった春日局も幼少時代に住んでいたといわれています。 平成5年11月に国の都市景観百選にも選ばれた、情緒あふれる二王座 は、映画「なごり雪」の舞台にもなりました。

発行:平成24年1月

株式会社 豊和銀行 経営管理部 〒870-8686 大分市王子中町4番10号 TEL.097-534-2611(代表)